



エフテック CSR 報告書 2018

On the Global Way

世界を結び、世界で創る

チャレンジ精神

Challenging Spirit

人間尊重

Respecting People

■ 編集方針

エフテックでは、2010年度より、当社グループのグローバルでの環境的側面や社会的側面に対する取り組み状況について報告して参りました。

2017年度より第13次中期経営計画が開始されたこと、社会的にCSR※1やESG※2の考え方が重視されている社会的背景を踏まえ、この度、今までの「環境報告書」から「CSR報告書」として刷新することといたしました。

本報告書は、当社グループのCSR活動に係るステークホルダーの皆様とのコミュニケーションツールの一つとして、CSR推進体制、ガバナンス・コンプライアンス、人権・労働、環境保全、安全・品質、社会の各側面について、わかりやすく報告させていただいております。

環境、社会など今まで報告して参りました内容は従前の内容を踏襲させていただき連続性を損なわないよう配慮させていただいております。今後さらなる内容の充実に努めて参ります。

環境については環境省「環境報告ガイドライン（2012年版）」、社会的責任については「ISO26000」などを参考にしています。

なお本報告書中、エフテックグループについてはエフテックグループないし当社グループ、株式会社エフテックについては、エフテックないし当社と表記しています。

※1 CSR：corporate social responsibility

※2 ESG：企業が持続的成長を目指す上で重視すべき3つの側面、環境（E）、社会（S）、企業統治（G）

Contents

利益の確保

Making Profit

- 01 編集方針
- 03 トップメッセージ
- 04 経営理念と CSR
- 05 企業活動概要
- 06 CSR体制
- 07 ガバナンスへの取り組み
- 09 適時・適切な情報開示
- 人権・労働課題への取り組み
- 11 働きやすい環境づくりへの取り組み
- 12 TOPICS 仕事と生活の両立に向けて
- 13 TOPICS 仕事への生きがい
- 環境保全への取り組み
- 14 環境マネジメント体制
- 15 2030年目標及び第13次中期経営計画目標及び初年度結果
- 19 サプライチェーンマネジメント
- 20 研究・開発の取り組み
- 21 TOPICS 第8回世界環境会議
- 22 TOPICS FTZが得意先の「環境賞」を受賞
- 品質・安全への取り組み
- 23 品質への取り組み
- 24 労働・安全衛生への取り組み
- 社会貢献活動・エリア別 CSR活動全般
- 25 社会貢献活動
- 26 エリア別 CSR活動
- 32 エフテックグループについて

将来の予測・計画・目標について

本報告書にはエフテックグループ下記「報告対象組織」の将来に関する予測についても記載しています。
これらの記載は、記載した現時点での情報に基づいた予測であり、確定的なものではありません。そのため将来の事業活動の結果が、本報告書に記載した予測とは異なる場合があります。

■ 報告対象期間

2017年度（2017年4月～2018年3月）の実績と一部期間外の内容を含みます。

■ 報告対象組織

★国内事業所、○国内グループ会社、●海外グループ会社

株式会社エフテック [報告対象拠点 3拠点]

- ★ 本社・久喜事業所 [埼玉県久喜市]
- ★ 芳賀テクニカルセンター [栃木県芳賀郡芳賀町]
- ★ 亀山事業所 [三重県亀山市]

海外子会社 [報告対象組織 12社 14拠点]

- F&P Mfg., Inc. [カナダ オンタリオ州] (F&P)
- Dyna-Mig, A division of F&P Mfg., Inc. [カナダ オンタリオ州] (DYNA-MIG)
- F&P America Mfg., Inc. [アメリカ オハイオ州] (F&PA)
- F&P Georgia, A division of F&P America Mfg., Inc. [アメリカ ジョージア州] (F&PG)
- Ftech R&D North America Inc. [アメリカ オハイオ州] (R&DNA)
- F.E.G. DE QUERETARO S.A. DE C.V. [メキシコ ケレタロ州] (FEGQ)
- F&P MFG., DE MEXICO S.A. DE C.V. [メキシコ グアナフアト州] (FPMX)

国内子会社・関連会社 [報告対象組織 4社]

- フクダエンジニアリング株式会社 [埼玉県加須市] (FEG)
- 株式会社九州エフテック [熊本県山鹿市] (QFT)
- 株式会社リテラ [埼玉県秩父郡小鹿野町] (リテラ)
- 株式会社城南製作所 [長野県上田市] (城南製作所)

- 偉福科技工業（中山）有限公司 [中国 広東省] (FTZ)
- 偉福科技工業（武漢）有限公司 [中国 湖北省] (FTW)
- 偉福（広州）汽車技術開発有限公司 [中国 広東省] (FR&DCH)
- Ftech Philippines Mfg., Inc. [フィリピン ラグナ州] (FPMI)
- Ftech R&D Philippines Inc. [フィリピン ラグナ州] (FR&DP)
- Ftech Mfg. (Thailand) LTD. [タイ アユタヤ県] (FMTL)
- P.T. F. TECH INDONESIA [インドネシア カラウン県] (FTI)
- ※ 煙台福研模具有限公司及び Michigan Branch Office、European Branch Office は量産工場ではなく、環境に関して重要な影響をおよぼしていないため報告対象外としています。

"Back to Basics, Challenge for New"
の方針のもと持続的成長とCSRに
全力で取り組んでいきます。

代表取締役社長

福田 龍一



新たな全社方針のもと、 世界No.1の足廻り製品を提供します

エフテックグループは2017年度に始まった第13次中期経営計画での全社方針を「Back to Basics, Challenge for New」と定めました。新たな中期経営計画を進めるにあたって、追求すべきことは、私たちがサブフレーム、サスペンション、ペダルコントロールなど足廻り専門メーカーとして、世界Topレベルの品質で、世界No.1の足廻り製品をお客様に提供することです。

現在、自動車業界を巡る技術革新は過去にないスピードで起こっています。このように変化が激しい時代だからこそ、「Back to Basics」で事業における本質を見つめ直し、当たり前のことを徹底し、「こだわりを極める」姿勢と新たな成長に向け「Challenge for New」で「新たな価値創造へ挑戦」することで持続的成長を遂げていきたいお客様に最高の価値を提供していきたいと当社グループは考えています。

サステナブル社会の実現に向け、 ともに歩み続けてこそ「価値ある成長」

当社グループが、社是で掲げる「世界的視野に立ち、高い志と誠をもって価値を創造し、国家社会に貢献するとともに豊かな未来を築くことに全力を尽くす」ことを前提に事業活動を展開しています。

単に当社グループの持続的成長を目指すのではなく、株主の皆様、お客様、お取引先様、従業員、地域社会

等のすべてのステークホルダーの皆様との共生や地球環境の保全に努めることが、豊かな未来、サステナブルな社会の実現につながると信じています。これこそが当社グループの考える「価値ある成長」です。当社グループは、激変する社会においても、常に「正しい企業行動とは何か」を考え、共有し、サステナブル社会の実現に向けやるべきことを確実に遂行して参ります。

「環境報告書」からCSRの観点へ裾野を 広げ「CSR報告書」を発行します

これまで当社グループは、環境保全への取り組みを中心に取り纏め「エフテックグループ環境報告書」として発行してきました。ただしサステナブル社会の実現には、ステークホルダーの皆様との対話機会の充実を含めたCSRの視点が不可欠です。企業として正しい判断を行うための統治体制構築（コーポレートガバナンス）、従業員の人權の尊重、安全・健全な労働環境の整備、製品の品質維持・向上、環境の保全、社会貢献の推進など多面的な取り組みを進めて初めて実現できるものと考えています。

2017年度に当社は創業70周年を迎え、また第13次中期経営計画をスタートさせたことを機に、さらに広く社会、環境に貢献することを目指し、内容を刷新し「エフテックCSR報告書」として発行することとしました。

社 是

わたしたちは世界的視野に立ち、高い志と誠をもって価値を創造し、
国家社会に貢献すると共に豊かな未来を築く事に全力を尽くす。

理 念

Challenging Spirit

チャレンジ精神

Respecting People

人間尊重

Making profit

利益の確保

私たちの行動指針

■法令の遵守

わたしたちは、あらゆる行動において倫理的に正しい行為を最優先に考えます。常に、法令・ルールを遵守し、遵法精神が高い企業であるために社会的良識を持って行動します。法令・ルールに違反する行為、違反のおそれのある行為を発見した場合には、所属長または企業倫理改善提案窓口へ報告、提案、相談します。

■人権の尊重

わたしたちは、働く全てのの人々を尊重し、いやがらせや差別、児童労働、強制労働など、人権侵害につながる行為は行いません。

■労働と安全衛生

わたしたちは、安心して働ける労働環境、労働条件を維持し、安全で衛生的かつ働き甲斐のある職場環境づくりを行います。

■品質

わたしたちは、製品・サービスの品質と安全性を最優先し、定められた基準や手順を誠実に遵守し、お客様の期待に応えます。

■社内規則の遵守

わたしたちは、コミュニケーション豊かで平等・健全な職場環境を築くために、社内規則の制定趣旨を正しく理解しこれを遵守します。

■交通安全

わたしたちは、自動車部品の生産に携わる者として交通ルールを守り、譲り合いの精神で模範となる安全運転に努めます。

■環境保全

わたしたちは地球が人類の財産であることを理解し、生産にかかわる環境負荷の最小化と持続可能な資源エネルギーの効率的活用を図り、継続的な環境保全に努めます。

■企業価値の拡大

わたしたちは、企業の存続が価値の創造であると捉えて社会に存在を認められる企業価値の拡大・長期継続的な利益確保に努めます。

■情報の管理と開示

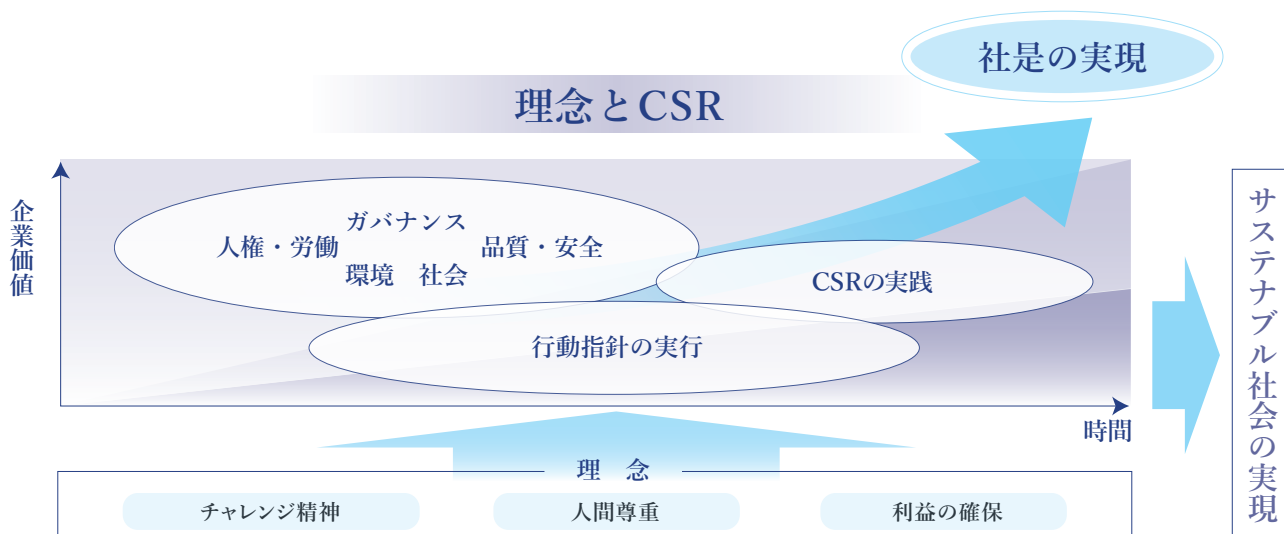
わたしたちは、個人情報や機密情報と開示すべき情報を峻別し適切に管理します。開示すべき情報は法令・社内規則に従い適時適切な開示に努めます。

■公正な取引

わたしたちは、不合理な商習慣には従わず、社会通念を超える利益供与や便宜、政治・行政との不透明な関係や反社会的勢力との関係を否定し、自由・公正・健全な取引を行います。

■コミュニティへの参画

わたしたちは、地域・社会の一員として、生活、文化、教育、福祉向上の為の活動等に積極的に参加し、平等で豊かな社会づくりを目指します。



第13次中期経営計画をスタートさせ 着実に取り組みを推進しています。

<財務指標>

■売上高

得意先の拡販、中国での自動車販売台数拡大の効果を受け、過去5年間で31.1%増加しました。

■営業利益

営業利益は、2016年度に80億円を超えたものの2017年度は北米地域での雇用環境悪化に伴う労務コスト増や生産効率の悪化、新機種種立ち上げロス等もあり、68億円となり2015年度と同様の水準となりました。

■有利子負債残高

新規得意先や既存得意先からの受注に伴う新規投資により増加傾向となり2017年度は595億円となりました。

■有利子負債依存度

上記のとおり有利子負債残高の増加により2014年度末に42.6%となりましたが、総資産残高の増加もあり、2017年度末には39.5%と低下しました。

<環境指標>

■CO₂排出量

目標：2013年度 CO₂排出原単位比6%削減

2017年度実績は原単位0.44t-CO₂/売上百万円(2013年度比▲11%)となりました。

■水資源使用量

目標：2013年度 水資源使用原単位比4%削減

2017年度実績は原単位2.85m³/売上百万円(2013年度比▲12%)となりました。

■廃棄物排出量

目標：2013年度 廃棄物排出量原単位比4%削減

2017年度実績は原単位0.040ton/売上百万円(2013年度比+13%)となりました。

	項目	単位	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
財務指標	売上高	百万円	172,456	175,579	196,343	197,941	226,060
	営業利益	百万円	6,725	5,564	6,821	8,035	6,856
	営業利益率	%	3.9	3.2	3.5	4.1	3.0
	ROE	%	16.2	6.3	9.1	12.8	12.8
	有利子負債残高	百万円	44,674	56,570	58,686	59,129	59,508
	有利子負債依存度	%	40.2	42.6	42.5	40.9	39.5
環境指標	CO ₂ 排出量 (原単位)	t-CO ₂ / 売上百万円	0.50	0.46	0.43	0.48	0.44
	水資源使用量 (原単位)	m ³ / 売上百万円	3.24	3.18	3.16	3.23	2.85
	廃棄物排出量 (原単位)	ton/ 売上百万円	0.036	0.033	0.040	0.048	0.040

企業価値向上とCSRを両立させるための 全社CSR体制を構築しました。

全社CSR委員会をスタートさせ、 当社グループでCSRへの取り組みを 展開します。

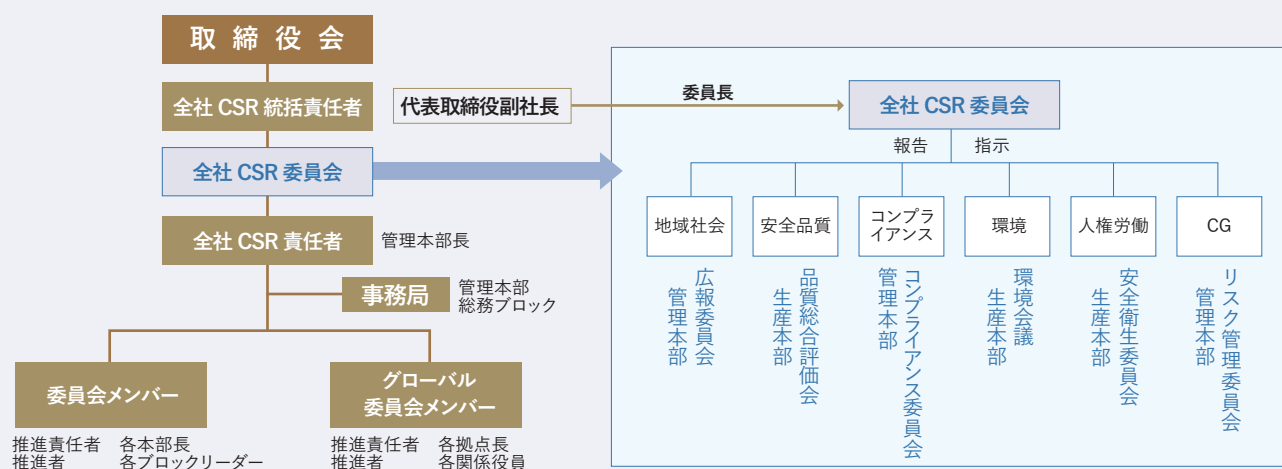
当社はグローバル企業として、日本、北米地域、アジア大洋州地域などで事業活動を展開していますが、各地域における社会的責任を十分理解しつつ活動しています。

日本では、本社や事業所、子会社、関連会社などが環境保全活動に取り組むとともに、年1回グループ内で開催される世界環境会議において情報共有を行っています。また、本社においては当社グループにおける製品の品質や労働安全性についての分析や改善策のグローバル展開、ガバナンス、従業員の働き方、コンプライアンスなど各種企画やグローバル展開を行っています。

北米地域やアジア大洋州地域の当社グループ各社においても2015年から順次ISO50001の導入や各種環境改善策への取り組み、地域社会貢献活動を展開しています。

こうしたCSRの活動を当社グループとして統一化し、グループとしてのシナジー効果を発揮するため、2017年に全社CSR委員会をスタートしました。全社CSR委員会では全社CSR方針やテーマごとに設置されている委員会や関連部門が行っている活動内容を共有化しつつ、更なるグローバルでのCSR活動の活性化を図っています。また、当社グループでは各社が各テーマから重要課題を選定し、自律的な改善活動を展開することで課題解決を図っていますが、その内容を全社CSR委員会で共有化することで当社グループのCSRレベルの向上を狙っています。

■ グローバルでCSR推進体制を構築し、 当社グループのCSR活動の高度化を図っています。



グローバル企業として、サステナビリティの向上を目指し ガバナンス体制の強化、改善に努めます。

コーポレートガバナンス体制

当社グループは株主、取引先、債権者の皆様、地域社会、従業員など多くのステークホルダーを重視する経営を目指しており、会社の持続性と長期的な株主利益の最大化を図ることをコーポレート・ガバナンスの基本目標にしています。

当社の取締役会は、取締役 11 名（社外取締役 2 名）で構成されており会社の経営上の意思決定機関として、重要な業務執行、法定事項の決定を行うほか、業務執行の監督も行っています。当社は、経営の監督と業務執行機能を分離し、取締役会における意思決定と監督機能を強化すること、業務の迅速な執行を図ることを目的として、執行役員制度を導入しております。また、経営監視を客観的に行うため、独立性の高い社外取締役 2 名を選出し、外部の視点を取り入れ経営に活かしております。なお、取締役については、経営環境の変化に機敏に対応できるよう、任期を 1 年としております。

当社は監査役会設置会社であり監査役会は、監査役 4 名（うち社外監査役 2 名）で構成され、各監査役は、監査役会が定めた監査の方針、業務の分担等に従い、取締役会への出席や業務、財産の状況調査等を通じ、取締役の職務遂行監査を行っております。

コーポレートガバナンスコードへの取り組み

企業が企業価値向上を狙いに積極果敢に設備投資を行い国際競争力を向上させること、その帰結として

株主利益を重視すること、株主権利の向上などを狙いとして 2015 年 6 月 1 日からコーポレートガバナンスコードが適用開始されました。当社はエフテックコーポレートガバナンスガイドラインを制定し当社の考え方を明確化するとともにコーポレートガバナンス報告書で当社のスタンスを明確化しております。2018 年 6 月末現在、当社がエクスペレインしている項目は以下のとおりです。

【補充原則4-2-1】

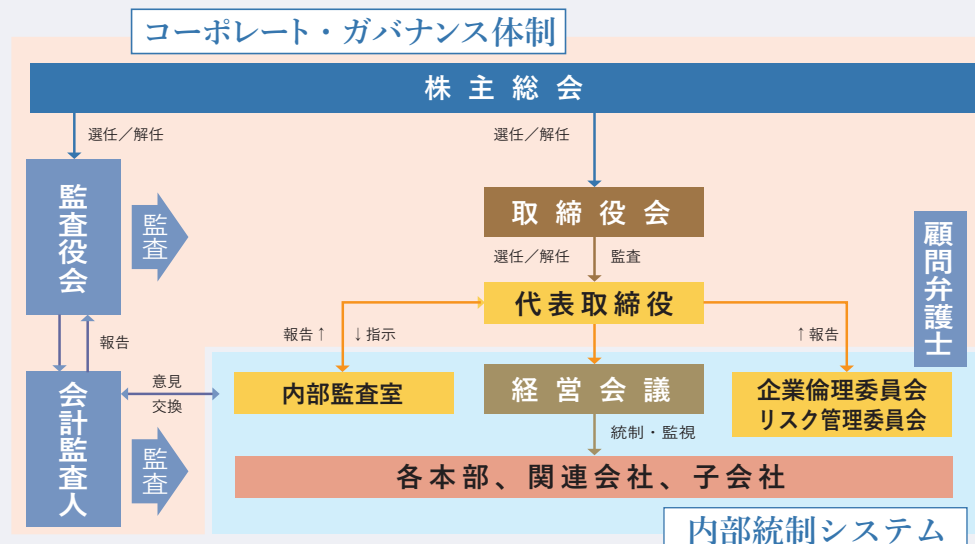
経営陣報酬のインセンティブ （現金報酬と自社株報酬の設定割合）

- ・当社は自社株報酬は導入していませんが、取締役等は固定報酬のうち一定金額を自社株を取得できる役員持ち株会制度に拠出しており、株主と利害関係を共有することで、会社の持続的成長と中長期的な企業価値向上に努めています。

【補充原則4-10-1】

任意の仕組みの活用 （指名、報酬委員会の検討）

- ・当社は任意の仕組みは活用していませんが、役員の候補者の選定や役員報酬の決定に関しては、取締役会において、社外役員の意見を積極的に聴取し慎重に審議したうえで役員候補者の選定や役員報酬の決定を行っています。



コンプライアンスへの取り組み

当社グループは、2004年10月に、コンプライアンスの遵守状況を検証、整備そして方針を策定する機関として、役員で構成される「企業倫理委員会」（委員長：取締役の中から任命されたコンプライアンスオフィサー）等を随時開催し、提案者保護を含め、部門では対応できない重要案件の対応方針の決定、該部門への改善指示を行い、コンプライアンスの遵守状況について、常に厳しくチェックができる体制としています。

2004年11月には法令定款違反行為を未然に防止するための企業倫理の向上・法令遵守を基本に置いた企業行動規範を「わたしたちの行動指針」として定め、当社及び当社子会社にコンプライアンス推進活動を実施しています。2006年6月には、企業倫理の向上・法令遵守を基本に置いた企業行動倫理について「コンプライアンス規程」を定めてコンプライアンスの確保に努めています。

法令・定款及び社会倫理に反する行為またはこれらの疑いのある行為については、当社及び当社子会社の使用人その他の従業員が直接会社に通報、相談することを可能とする「企業倫理改善提案窓口」を設置し、内部通報者が保護されるシステムを整備しています。

2015年度には会社でのコンプライアンス遵守に関する事項を展開する組織体としてコンプライアンス委員会を新たに設置しました。加えて、匿名での受付も可能な当社専用の社外提案窓口を弁護士事務所に設けるとともに、監査役・社外取締役提案窓口を設置することで、いっそう提案者が提案しやすい環境を整えました。また、「わたしたちの行動指針」の内容を見直し、より分かりやすく改訂した冊子「わたしたちの行動指針と企業倫理改善提案窓口」を全従業員に改めて配布しました。

今後もコンプライアンス教育の一環として、取締役及び従業員に対するコンプライアンス研修を継続して実施し、コンプライアンス意識の維持・向上を図ります。

リスク管理への取り組み

当社及び当社子会社は、当社の主要な業務執行に係るリスクを認識し、担当部門が専門的な立場から管理責任者を設け、会議を開催し、損失の危機を未然に防止する体制としています。リスク管理体制の基礎として、2006年6月に「リスク管理規程」を定め、個々のリスクについての管理責任者を決定し、リスク管理体制を整備しています。また、不測の事態が発生した場合は、管理本部内に社長を本部長、副社長または担当役員を副本部長とする対策本部を設置し、顧問弁護士等と協議のうえ、損害の拡大を防止し、損失を最小限に止める体制としています。

通常時においては、取締役会の中から任命されたリスクマネジメントオフィサーが、各部門において任命されたリスク管理責任者を集め、半期に一度リスク管理に関する協議を行い、各部門における潜在リスクの洗い出し、分析、事前予防等の運用状況など、協議した内容について取締役会に報告しています。

2014年度には、リスク管理委員会を設置し、全社でのリスク体制フォロー、顕在化リスクの改善・再発防止等をグループ展開。同時に全社でのコンプライアンス遵守に関する事項を展開する組織体として企業倫理委員会メンバーで構成されるコンプライアンス委員会を設置しました。両委員会ともに2015年度から年2回開催し、当社及び当社子会社ごとに毎年、業務に応じて作成したチェックリストを用いて自己検証し、それぞれ報告・審議してきました。2017年全社CSR委員会設置以降は、その結果を「全社CSR委員会・リスク管理委員会・コンプライアンス委員会」の3委員会に報告・審議の上、グループ全社の検証結果を取締役会で最終報告しています。

3つの委員会は、当社のコーポレート・ガバナンス、内部統制体制強化の一環として全社に及ぶCSR・リスク・コンプライアンスに関する諸問題を洗い出し、リスク統制のフォロー、顕在化リスクの改善、再発防止策等を全社展開することを目的にしています。

適時・適切な情報開示で経営全般の透明性を高めるとともに持続的な成長を目指します。

当社ではエフテックコーポレートガバナンスガイドラインにおいて「適切な情報開示」と「株主との建設的な対話に関する方針」を定め、適時・適切な情報開示に努めています。

①適切な情報開示:

(エフテックコーポレートガバナンスガイドライン 第14条)

当社は、株主を含む全てのステークホルダーからの信頼関係の構築に努め、情報開示は、法定開示のみにとどまらず、経営方針や財務状況、事業の取り組みなどの情報を公正かつ分かりやすく開示し、経営の透明性を確保する。

②株主との建設的な対話:

(エフテックコーポレートガバナンスガイドライン 第34条第1項)

当社は、持続的な成長と中長期的な企業価値向上を図るためには、建設的な対話を目的とする株主との対話は不可欠であるとの認識のもと、双方向の対話の充実に努める。

【株主との建設的な対話に関する方針】

当社は、持続的な成長と中長期的な企業価値の向上のためには株主との建設的な対話が不可欠であることを認識し、対話に当たっては以下の方針で臨むものとする。

- ・株主との対話は合理的な範囲で代表取締役社長、IR担当役員等、経営陣またはIR担当部門の管理職が行うものとする。
- ・IR担当部門は、社内との関係部門と連携体制を構築し、建設的な対話を実現する。
- ・中長期的な企業価値を判断するための情報開示に努め、株主との対話を通じて企業価値を高める。
- ・IR担当部門は、個別面談に加え、決算説明会や施設見学会の開催、IRフェアへの参加などIR活動の多様化を図る。
- ・IR担当役員は、対話により自社の方針などを株主に丁寧に伝え、株主から意見を頂いた場合は、取締役等に伝達し共有する。
- ・IR担当役員は、公平な情報開示を徹底するため、社内規程に基づき、未開示の重要情報の管理を徹底する。

株主・投資家の皆様とのコミュニケーション

当社は株主・投資家の皆様へ適時・適切な情報開示に努めています。

また、株主・投資家の皆様に対して、当社への理解をより深めていただくために、株主総会や個人投資家様向け会社説明会、各種イベントへの出展を通じて、皆様とコミュニケーションを図れる機会を設けています。

これからも、当社ならびに当社グループをより深くご理解いただくとともに、ファンになっていただけるような活動を展開していきます。

機関投資家の皆様とのコミュニケーション

当社は年に2回(5月と11月)、機関投資家・アナリスト・メディア関係者の皆様向けに決算説明会を開催し、代表取締役社長による業績・事業計画・トピックスなど説明を行っています。

また、四半期ごとに個別取材や電話会議などを通じて、国内外の機関投資家・アナリスト・メディア関係者の皆様とのコミュニケーションの場を設けています。

IR活動

決算説明会

開催日:2017年5月11日

場 所:ステーションカンファレンス東京



人とクルマのテクノロジー展

開催日:2017年6月28~30日

場 所:ポートメッセ名古屋



日経IR・投資フェア2017

開催日:2017年8月25~26日

場 所:東京ビッグサイト



第2四半期決算説明会

開催日:2017年11月8日

場 所:ステーションカンファレンス東京



クルマの軽量化技術展

開催日:2018年1月17~19日

場 所:東京ビッグサイト



5月

株主総会(第62回)

開催日:2017年6月23日

場 所:ホテルラフレさいたま 桃の間(5階)



6月

7月

個人投資家様向け会社説明会

開催日:2017年7月6日

場 所:TKP大宮駅西口 カンファレンスセンターホール



8月

9月

10月

個人投資家様向け会社説明会

開催日:2017年12月5日

場 所:久喜総合文化会館



11月

12月

1月

個人投資家様向け工場見学会

開催日:2018年1月26日

場 所:久喜事業所



2月

人権の尊重を最重要項目とし、従業員のワークライフバランスに配慮し、働きやすい環境づくりに努めています。

エフテックグループでは理念として掲げた人間尊重の考え方のもと、性別、国籍、宗教、文化、思想による差別を一切行わず、すべてのステークホルダーに対し健全で誠意を持った対応をしています。

ダイバーシティの取り組み

エフテックグループでは多様性の確保に取り組んでいます。個人の持つ個性を活かすために、適性を考慮し平等に機会を与えると共に女性やマイノリティの増加に向けた採用活動、シニア世代への対応などすべての人が活躍できる仕組みづくりを進めています。

ワークライフバランスへの取り組み

働く人が生きがいをもって働くためには充実したプライベートタイムも必要であるとの考え方から「生活と仕事の両立」を目指した取り組みを行っています。

長時間残業の削減を目指し、残業時間は月 20 時間以内を基本とし適切な時間管理を行っています。休日出勤時の代休付与や有給休暇のカットゼロも積極的に推進しています。（管理職を除く従業員の有給休暇取得100%を10年以上継続しています。）

さらに有給休暇の半日単位の取得やフレックスタイム、短時間勤務制度など、個々のライフワークにあわせた運用も実施しています。

女性の活躍

女性の活躍推進法に基づき、経営層及び管理職層への女性の登用（現在、役員1名、管理職2名）や、全従業員に占める女性比率増加を目指し積極的な採用（直近3年間での女性の採用：18名）を進めています。また出産育児に関連し、休暇制度の拡充や専用ガイドブックを活用した各種制度の周知、休業から復帰する

際の上司、アドバイザーとの3way事前面談による計画的かつスムーズな復帰支援を推進しています。

これらの支援策を進めた結果、直近3年間の女性の育児休業取得及び復職は100%となっています。（17名が育児休業取得、20名が復職）男性の育児休業取得者についても3年間で4人と徐々に増加しています。

上記の取り組みが評価され、当社は、2018年5月に、厚生労働省の次世代育成支援対策推進法に拠る「くるみんマーク」を取得することができました。

人権啓発のための取り組み

当社では、理念にある人間尊重の観点から、社員が人間を尊重し、児童労働、強制労働を含むパワーハラスメント、セクシャルハラスメント等の発生防止の為の研修を従業員へ実施し、毎年遵守状況を全社員に確認しています。

又、人権侵害等が発生したと思われる場合に匿名でも相談できるように、内部通報窓口を社内外に設けています。

相談窓口：企業倫理改善提案窓口

メンタルヘルス相談窓口



認定取得実績



埼玉県シニア活躍推進宣言
企業認定(2016年度)



埼玉県「多様な働き方実践企業」
ゴールド認定(2015年度)



子育て支援サポート
くるみんマーク取得(2018年度)



■ワークライフバランスへの配慮施策

- ・短時間勤務者の半日有給休暇制度の拡大
- ・育児のための短時間勤務制度を小学校3年次まで拡大
- ・育児・介護の両立支援
- ・有休の取得、繰り越しカットゼロ→**18年連続達成**
- ・芳賀テクニカルセンター→**フレックス制度の導入**



私生活が充実してこそ、仕事も頑張れる。
もっと制度の周知を徹底していきたい。

人事ブロック
森 智子

エ フテックでは、仕事と私生活の調和を目指して、育児・介護対象者だけでなく、一般の社員も含めた「働きやすい会社」を目指しています。

未 就学児対象の育児両立制度は充実しており、とくに短時間勤務では、法を上回る小学校3年生修了までが対象です。育児の半日有休制度（年10回）については、男性の利用者も多く、男女ともに育児に参画している様子が伺えます。

私 は、第一子の時、保育園入園の事情もあり、生後9ヶ月で職場復帰しました。乳幼児の子育ては想像以上に大変で、6時間勤務になってとても助かりました。仕事の間は子育てから離れて切替もでき、忙しい中にも充実感を感じることができました。また、限られた時間の中での効率的な仕事の進め方も意識するようになりました。現在は子供の成長にともなって、7時間の短時間勤務を選んでいきます。今後は、短時間勤務だけでなく、フレックス、時差出勤等、時間の選択の幅が広がればいいと思っています。

育 児・介護では、制度の存在を知らずに離職を考える方もいます。現在ポータルサイトへ「育児・介護両立支援ガイドブック」を公開（2017年4月）し、各地区で管理職向けに「育児介護両立支援制度説明会」を進めています。

気 になることがあればお気軽に管理・人事宛にご連絡頂ければと思います。有休カットゼロ推進や、残業規制等、当たり前のように考えていますが、ここまで遵守している企業はなかなか無いと思います。今後は育児関係だけでなく、シニア活躍推進や介護問題についても取り組んでいきたいと考えています。



2018年5月には、「くるみん認定」も取得しました。申請半年前から認定に係る様々な書類を準備し、書類提出後も指摘・確認が多く、認定されるまで2ヶ月程かかりました。

二回目認定を2021年4月に予定しているため、それまでに「管理職対象の育児介護制度説明会開催」「産休前・育休復帰前の面談制度実施」などの目標を達成できるよう計画的に進めたいと思います。



モ ノづくりに携わる仕事が志望でエフテックに入社を決めました。当時エフテックでは、ハイドロフォームや衝突安全機構付のペダルなどモノをつくるだけでなく、様々なことにチャレンジし成長しているという印象でした。そのような会社の中で働く事で自分自身も会社とともに成長していけると感じたのが決め手でした。

製 品に求められるスペックを満足した仕様を構築するには、CADでのモデル作成、CAEによる性能評価など自らパソコンに向かう業務のみならず、取引先や社内との調整も必須です。いかに高品質で造りやすく、付加価値の高い製品とするか様々な部署の意見を仕様に反映できるかが設計者としての腕の見せ所だと思います。

自 動車業界でも燃費・排ガス規制やEV車を含めた車両の電動化など、ますます環境対応が進む中、部品の軽量化やエンジン効率の向上、空気抵抗の低減など、いっそう高性能な製品が求められています。これらを両立させるために開発領域では、今ある技術要素を進化させて、仕様設計に反映していかなければなりません。個人としても常に

向上心をもって仕事に取り組む事で、現状に満足する事なく成長していき、魅力ある製品を生み出していきたいです。

た とえば、軽量化においては、様々な解析技術を最大限に活用しつつ、生産部門からの生技性要望を両立させることで、初めて魅力ある仕様提案に繋がります。これによって前モデルに対し大幅な軽量化を実現させて

自 います。自分が設計した部品を載せた車が街中を走っている姿を見ると、ほんとうにこの仕事を選んで良かったと思います。



オールエフテック体制を目指して 引き続き「省エネコア人材」育成を推進します。

オールエフテック環境マネジメント体制

エフテックグループは環境問題を企業が取り組むべき最重要課題の一つと考えます。国内では 1998 年から ISO14001 の認証取得に向けて取り組みを開始。海外の生産拠点でも 2009 年には認証取得を完了し、オールエフテックでの環境マネジメント体制を構築しています。また、新たに設立したメキシコの生産拠点でも、2017 年 5 月に認証登録が完了しています。

組織体制

当社グループでは、2008 年からオールエフテックでの環境管理体制の構築をスタートさせました。海外拠点の拠点長を責任者として拠点毎に実務担当者を設置し、オールエフテック環境組織体制を整備しています。

法令遵守

環境に関する法令は、国や地域によって多種多様であり膨大です。一部海外拠点では、外部の専門機関とコンサルタント契約を結び法令遵守を確実なものとしています。国内 3 事業所では、産業廃棄物の電子マニフェストシステムを導入し、廃棄物処理に関する遵法管理のレベルアップを図っています。また、3 か月に 1 回開催している全社環境会議で届出状況や規制基準に対する推移状況を確認しているほか、2017 年度から新たに「遵守義務講習」という講習を企画し、各事業所の法令担当者を集めて遵守評価のやり方、法規制等の内容について講習を実施するなど、グループ全体での法令遵守を確実なものとするべく努めています。

環境教育

当社では、ISO14001 基礎コースが会社の必須科目として登録されている他、省エネ研修や内部監査員養成コースなどを実施して従業員への環境教育に力を入れています。2015 年度から開講された「エネルギー診断基礎コース」は、2017 年度までにエフテックでは 33 名、海外では 3 拠点 32 名の従業員が受講しました。本コースも会社の必須科目として登録し、ISO50001 のエネルギーレビューでエネルギー診断ができる人材育成に注力しています。

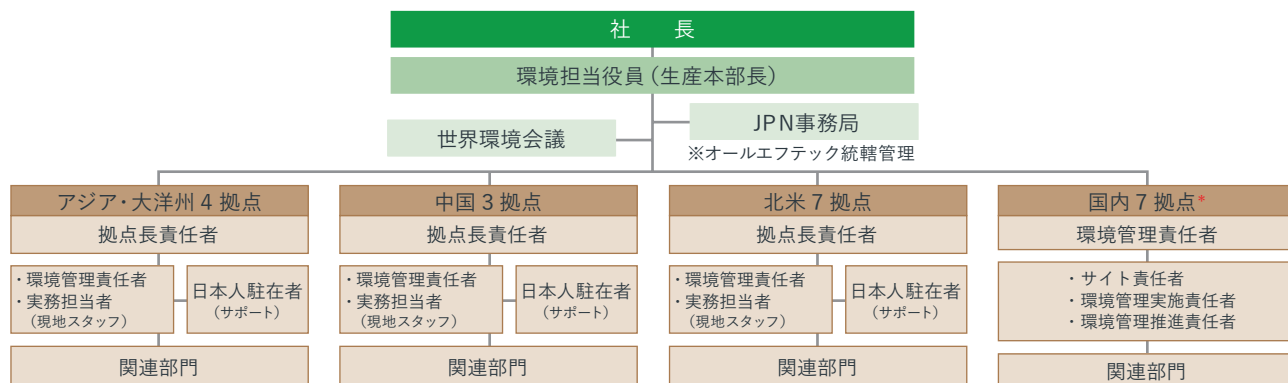
また、当社グループでは、従業員の環境教育の一環として、社会貢献活動や生物多様性の活動を企画し、従業員が積極的に参加しています。また、海外では拠点ごとに工夫を凝らした環境教育を実施しています。

内部環境監査

当社グループでは、各拠点の環境マネジメントシステム及びエネルギーマネジメントシステムのもと、内部環境監査を定期的実施し、システムの適合性を確保しています。

当社では、有効な監査を行うために、内部環境監査員講習を定期的開催し、継続的に監査員の拡大に努めています。さまざまな部門の監査員が監査に参加することで、公平性の高い監査を実施しています。2017 年度の内部監査では 28 名の監査員が内部監査に参加しました。

■エフテックグループ環境管理体制



* 国内 7 拠点については国内子会社・関連会社を含みます。

環境保全への取り組み

2030年目標及び第13次中期計画目標（環境領域）及び初年度結果

2030年目標、課題を明確化しグループで環境トップランナーを目指します。

2017年度は、第13次中期計画（環境領域）の初年度であるとともに、新たに設定した2030年目標の初年度となり、重要な年となりました。従来からの継続目標では計画値を大幅に上回る結果となりました。今年度から新たに目標に加えた「廃棄物排出原単位の低減」に関しては13%悪化となってしまいました。現在、各拠点にて原因究明と削減対策を検討しており、来期より挽回していききたいと思います。

第13次中期計画（環境領域）の重要施策となる「省エネコア人材の育成」に関しては企画立案が完了したに過ぎないため、今後も計画達成に向けてエフテックグループ一丸となり取り組んでいきます。

【2017年度エフテックグループ 環境・エネルギー計画※1と結果】

グループ全体の取り組みをリードすべく目標を確実に達成します。

対象：エフテックグループ（国内6拠点、海外14拠点）

展開内容		時期		
		2017	2018	2019
温室効果ガス排出原単位の低減	計画	[6%改善(13年比)]	[7.5%改善(13年比)]	[9%改善(13年比)]
	実績	10.7%改善		
	評価	○		
水質源使用原単位の低減	計画	[4%改善(13年比)]	[5%改善(13年比)]	[6%改善(13年比)]
	実績	12.1%改善		
	評価	○		
廃棄物排出原単位の低減	計画	[4%改善(13年比)]	[5%改善(13年比)]	[6%改善(13年比)]
	実績	13.0%悪化		
	評価	×		
生産拠点での環境報告書の発行	計画	[発行準備]	[社内発行]	[正式発行]
	実績	発行準備着手		
	評価	○		
海外ベンチマーク拠点でのISO50001への適合	計画	[アジア大洋州着手]	[アジア大洋州完了]	[北米水平展開]
	実績	マニュアル整備完了		
	評価	○		
ISO14001(2015年改定版)の認証取得 対象：エフテックグループ	計画	[システム構築]	[移行登録]	[継続展開]
	実績	残り2拠点 未完了		
	評価	△		
新規立上げ量産拠点でのISO14001認証取得	計画			
	実績	(今後2016年度水準を維持)		
	評価			
省エネコア人材の育成	計画	[育成カリキュラム企画]	[育成カリキュラム構築]	[トレーナー育成完了]
	実績	企画立案完了		
	評価	○		
地域社会への貢献活動	計画			
	実績	(今後2016年度水準)		
	評価			
生物多様性の評価(事業活動領域)	計画	[現状把握]	[対策検討]	[ガイドラインのブラッシュアップ]
	実績	把握完了		
	評価	○		

○：目標達成、△：達成度70%以上100%未満、×：達成度70%未満、－：対象外

※1「開発/エンジニアリング」の目標については機密情報の観点から公表を控えています。

2017年度エフテック国内事業所 環境・エネルギー計画と結果

2017年度エフテック国内事業所 環境・エネルギー計画^{※1}

グループ全体の取り組みをリードすべく目標を着実に達成します。

2017年度は全管理項目において目標を達成することができました。“CO₂排出量の低減”に関しては、投資効率のよい改善施策が少なくなってきた中で、一丸となり知恵を出し合いながら日々取り組んでいる結果だと思われます。今後も高い目標を達成するために、全員で協力しつつ計画的に改善に取り組めます。

また、“ISO50001海外展開”や“省エネコア人材の育成”に関しては、第13次中期計画（環境領域）にもあるように今後本格化していく取り組みとなります。これら項目を達成することが、グループ全体の原単位改善につながるを考え、目標を確実に達成できるように取り組んでいきます。

【2017年度エフテック国内事業所 環境・エネルギー計画の結果】

対象：エフテック国内3事業所（久喜・亀山・芳賀事業所）

管理項目	目標	管理水準	実績	評価
CO ₂ 排出量の低減	CO ₂ 排出原単位	全領域（久喜＋亀山＋芳賀）62期比 99Point （生産領域＋開発領域）以下	98.9Point 1.1%改善	○
	施策によるCO ₂ の削減	施策削減量（久喜＋亀山＋芳賀） 110.4t-CO ₂ 以上	200.6t-CO ₂	○
エネルギー マネジメントの進化	ISO50001海外展開	アジア大洋州ベンチマーク拠点 着手	システム文書構築完了	○
	省エネコア人材の育成	省エネコア人材育成カリキュラム企画	「省エネコア人材の育成 プログラム」立案完了	○
社会的責任の遂行	地域社会への貢献活動	参加率25%以上/各サイト正規従業員 （延べ人数）：207人	参加人数 368人	○

○：目標達成、△：達成度70%以上100%未満、×：達成度70%未満、－：対象外

※1「開発/エンジニアリング」の目標については機密情報の観点から公表を控えています。

2030年グローバル目標

■CO₂排出原単位

▲26%改善

基準年：2013年度比
指 標：売上高

■水使用原単位

▲17%改善

基準年：2013年度比
指 標：売上高

■廃棄物原単位

▲17%改善

基準年：2013年度比
指 標：売上高

※CO₂排出 対 象：工場内で使用されたエネルギー

対象外：物流、社用車、溶接CO₂ガス

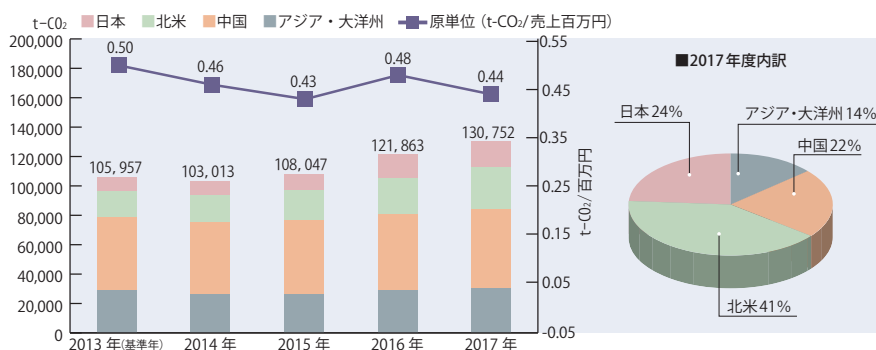
※温室効果ガス排出、水資源使用と整合性を高くするため、売上高にはグループ間取引分を含めています。

2030年目標に向けて、再スタートします。

CO₂排出量の実績推移

目標< 2013年度比CO₂排出原単位 6%削減>に対し、実績< 同 11%削減>と大幅に達成しました。しかし、CO₂排出量では、2013年度比 23%増と、年々増加しています。原因としては、特に中国・アジア大洋州での生産数が前年度比約 30%増加したことが大きな要因と考えられます。

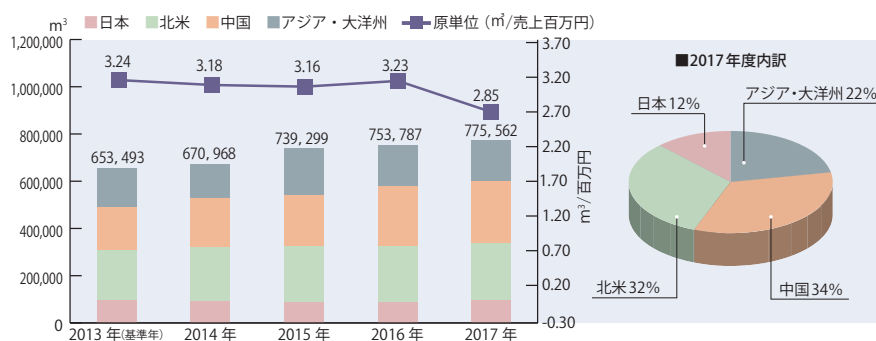
今後は、各拠点で生産数に応じたエネルギー使用の最適化を図り、無駄なエネルギーの削減に努めていきます。



水資源使用量の実績推移

前年度から 3%増加していますが原単位では 12%改善となっています。中国・アジア大洋州での生産数増加の中でも、水使用量は前年度比、中国で 3%増加、アジア大洋州に関しては昨年度並の使用量となっています。これは、各拠点で様々な水削減施策を実施した効果だと思われます。

地域ごとに水リスクレベルには違いがありますが、今後も節水施策の実施や、日々の使用状況の管理に努めていきます。

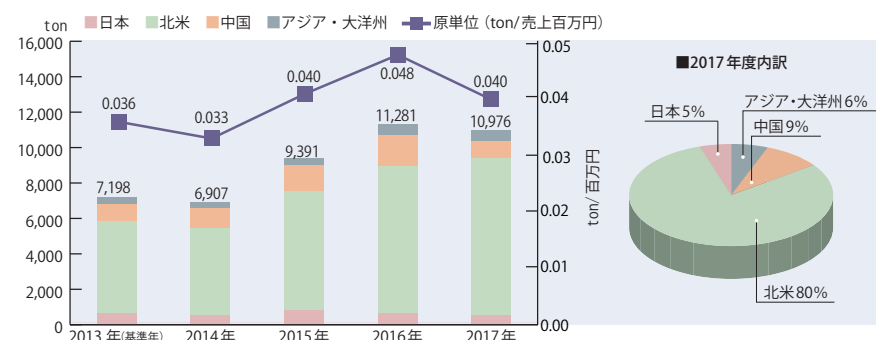


廃棄物排出量の実績推移

前年度比では、廃棄物排出量 3%削減、原単位 17%改善となりましたが、2030年目標の基準年 2013年度と比較すると、排出量で 52%増加、原単位は 13%悪化となりました。

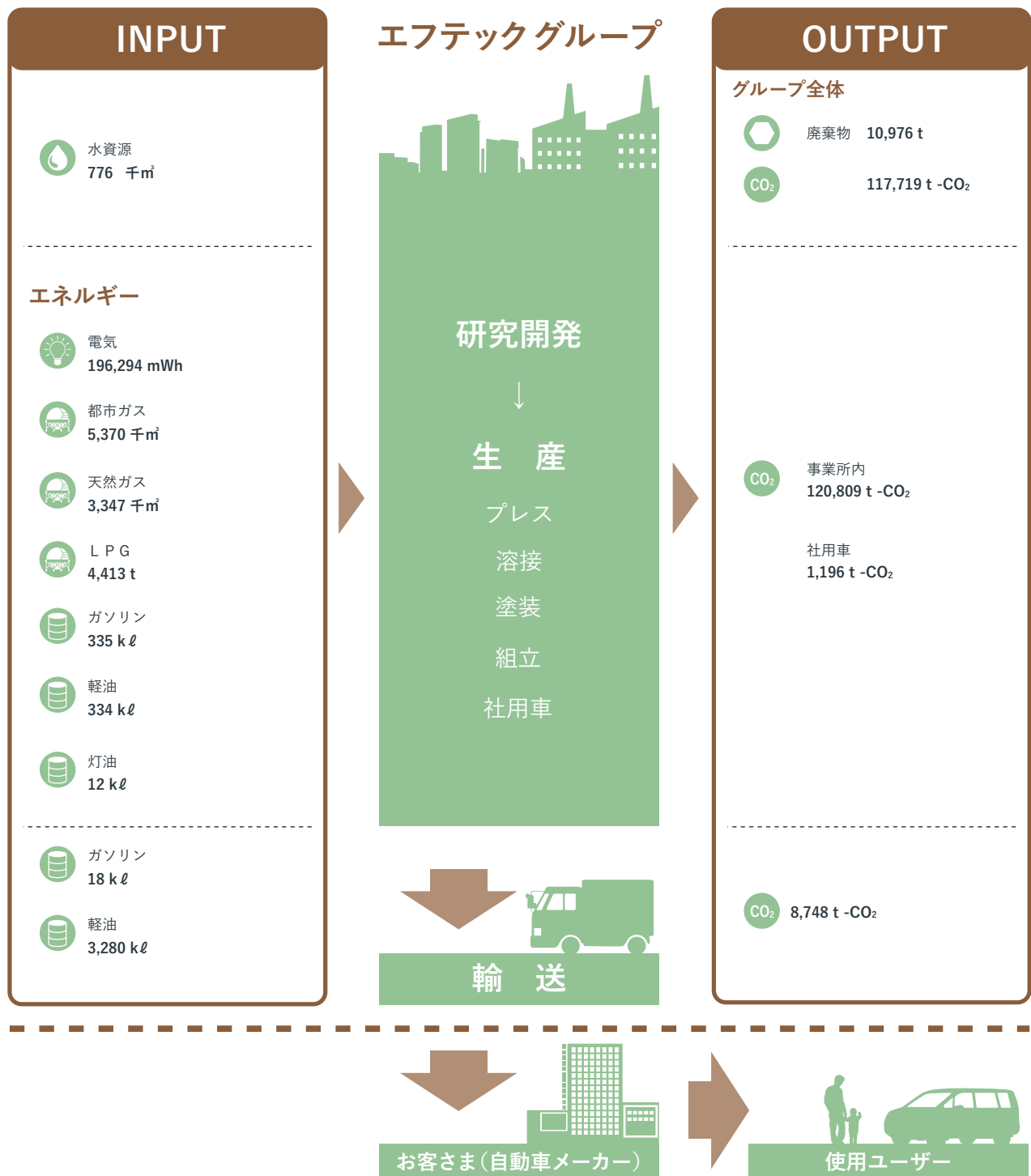
2030年目標に切り替わるタイミングで、各拠点の廃棄物データに関する指標を、改めて 2017年度の世界環境会議で統一しました。

今後も拠点ごとの微妙な把握方法の違いを是正していくことで、データ精度の向上を図り、いっそう精緻な評価が可能な体制構築に取り組んでいきます。



※日本には、久喜事業所、亀山事業所、芳賀テクニカルセンターの他、国内子会社、関連会社のデータが含まれています。

エフテックグループの事業活動とエネルギー消費/CO₂排出の関係



- ・OUTPUTのCO₂排出量は、INPUTのエネルギー使用量にCO₂換算係数を乗じて算出しています。
- ・CO₂の算出方法は、経済産業省・環境省の「温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル」とWRI/WBCSD「The Greenhouse Gas Protocol」を参考にしています。
- ・国内電力は電力会社ごとの最新の係数をもとに算出しています。
- ・対象期間は、2016年4月～2017年3月のデータです。

グループ全体でCSRに配慮しつつ グリーン購買の取り組みを推進しています。

エフテックグリーン購買の考え方

エフテックグループでは、環境に配慮した部品・材料や製品を優先して購入するグリーン購買の基本的な考えを「エフテックグリーン購買ガイドライン」として定めています。

2013年7月に約70社のお取引先に配信開始以来、2018年4月現在国内外の当社グループのお取引先54社に対して以下の推進をお願いしています。

- 環境マネジメントシステムの構築
- 環境関連法令の遵守
- 製品含有化学物質管理の実施
- 温室効果ガス排出量の把握と削減

当社グループは、グリーン購買ガイドラインに則り、お取引先とともに、グリーン購買を推進することで、継続的な地球環境保全に努めています。

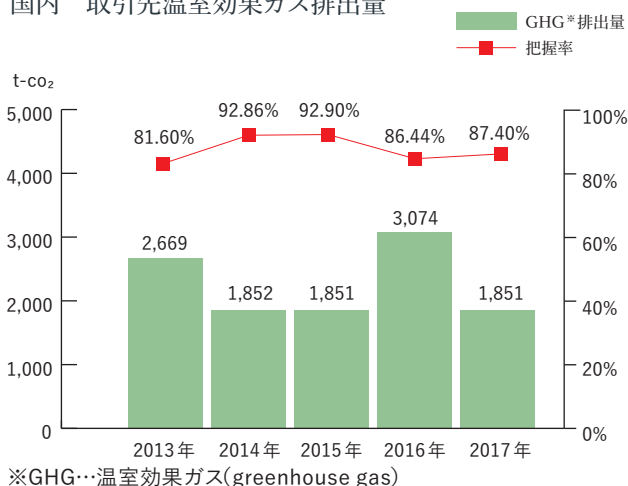
製品含有化学物質管理

当社グループでは、製品含有化学物質規制に対し、各拠点で管理体制を構築しIMDS調査を実施しています。人や環境への有害性があり、法律によって使用が禁止もしくは規制されている物質を「エフテック製品化学物質管理基準書」に定め、これらの物質の使用を厳しく禁じています。

またグリーン購買活動を通じて、お取引先の理解も得ながら対象物質の排除に取り組み、これらの物質を含まない製品をお客様に提供しています。

バリューチェーンでの温室効果ガス排出量の把握

国内 取引先温室効果ガス排出量



お取引先への働きかけ

購買方針説明会

2018年4月に、お取引先54社に出席いただき購買方針説明会を愛知県名古屋市で開催し、当社の環境への取り組み事例を紹介しました。また、環境取組状況調査の協力をお願いし、お取引先の状況を把握することが出来ました。今後も開催する説明会において、エフテックのCSR基本方針を説明し取引先にも理解を求めて参ります。

環境取組状況調査

1. 環境負荷物質調査:
 - ①各エネルギー使用量 ②水資源使用量
2. CO₂削減目標の設定と達成状況
3. 生物多様性活動状況

改善事例

当社ではお取引先に対しても温室効果ガス排出量削減を呼びかけ改善に取り組んでいます。

- ・溶接ペール缶を改善し、分別可能な資源ゴミへ変更することで、廃棄する鉄屑を削減。

⇒2,217kg/YearのCO₂削減『杉の木換算で約158本』

- ・部品運搬用のスチールケースを製品にあったサイズに変更し、収納効率を向上し、海上輸送コンテナの使用数を毎月1コンテナ削減。

⇒5,268kg/YearのCO₂削減『杉の木換算で約376本』

その他

紛争鉱物調査

紛争鉱物問題については、ESG上の主要課題として、コンゴ共和国及びその周辺地域の人権侵害・環境破壊に繋がり、武装勢力の資金源となる紛争鉱物の使用を固く禁じ、経済開発協力機構(OECD)が発行した「紛争地域及び高リスク地域からの鉱物の責任あるサプライチェーンのためのデュー・ディリジェンス・ガイダンス」に沿った調査をお取引先の協力を得て定期的実施しています。

モビリティ社会の環境変化を大きなチャンスと捉え 軽量化を中心に環境改善に寄与しています

現在、自動車業界は大きな技術変化の波の中にいます。燃料がガソリンから電気や水素に変化するとともにパワートレインはエンジンからモーターへと変化することが予想されています。まさに優勝劣敗の時代が到来したといえるわけですが、これまでも開発本部では積極果敢なチャレンジを行い新規受注、軽量化を実現する技術を生み出し苦境を乗り越えてきました。開発本部では今後もこれらの変化や更なる軽量化要求に適応するため新たな技術開発に取り組んでいます。

開発本部は、モビリティ社会が変化していく中、独自の開発技術力を活かし、次の10年、20年先に向けて、更なる軽量化、安全性を実現できる技術開発を通じてグローバル社会に貢献したいと考えています。

- | | |
|---|---|
| <p>1947 年</p> <p>1959 年</p> <p>1967 年</p> <p>1978 年</p> <p>1983 年</p> <p>1986 年</p> <p>2000 年</p> <p>2004 年</p> <p>2005 年</p> <p>2006 年</p> <p>2008 年</p> <p>2011 年</p> <p>2013 年</p> | <p>埼玉県草加市にエフテックの前身・福田製作所創業</p> <p>「スーパーカブ」の部品（フォークトップブリッジ）の加工提案が端緒</p> <p>三重県亀山工場操業。新鋭設備や自動化などで四輪時代に対応</p> <p>埼玉県久喜市に本社工場移転</p> <p>足廻り機能部品メーカーへの第1歩</p> <p>サスペンション部品の開発受注。</p> <p>カナダ「F&P Mfg., Inc.」設立。以降海外展開が拡大</p> <p>フロントサブフレームの軽量化に対応した</p> <p>ハイドロフォーミング成形技術導入</p> <p>世界初のアルミ溶接技術開発</p> <p>熱間バルジ成形の量産体制確立</p> <p>東証一部上場</p> <p>軽量化に貢献する3D-FSW（三次元摩擦攪拌接合システム）開発</p> <p>日本、アメリカ、フィリピン、中国のグローバル4極開発体制スタート</p> <p>FSWを進化させたアルミとスチールの異材連続接合技術で第60回大河内賞受賞
（本田技研工業株式会社と共同開発）従来のスチール製サブフレームに対し25%の軽量化実現</p> |
|---|---|



■現在の研究・開発について

ハイテン材とアルミ材を融合し、軽量化に貢献

当社では、小物のペダル部品から大物のサブフレームまで幅広い製品にアルミ材を適用しています。直近では北米 Honda Accord に於いてスチールとアルミといった異材に摩擦攪拌接合（FSW）を適用したサブフレームの量産を開始しました。高まる燃費規制値のクリアを目指して、製品への更なる軽量化は大きなキーワードの一つです。

シャーシ部品のサスペンションアームやアクスルビーム等のエフテック主力製品群も、ハイテン材の積極的な採用などで強度を保ちつつ板厚を低減することで軽量化を実現し、燃費向上に貢献しています。

独自の解析技術を駆使し製品性能領域まで予測

当社では、お客様の強度耐久や車両性能向上へのニーズの高まりに対応するため、独自に発展させた最適化シミュレーションや機構シミュレーションを駆使して製品設計を実施しています。最適化シミュレーションとは、無駄のない製品形状を検討する手法で、最近では要求性能が高まる衝突性能にも適用し、最軽量製品を開発しています。

さらに、独自に構築した衝突解析手法を用いて高効率なエネルギー吸収構造・骨格を構築。車種ごとのニーズに対応した開発が可能となりました。

第8回世界環境会議



2017年10月10日～12日にかけてグループ14拠点39名の担当者を招集し「第8回 世界環境会議」を開催しました。

今回含め全8回の世界環境会議を通じて累計約4億円相当の環境有効施策を共有し、世界規模での製造原価低減と環境負荷低減に貢献することができました。会議の冒頭で、社長からこれまでの環境活動の成果、世界環境会議の重要性について話があり、参加者全員で世界環境会議の目的を改めて共有しました。

今回の会議では、環境トップランナーの実現に向けてグループ内のノウハウをどのように共有していくか、その共有方法について細部まで議論を重ねました。また、各グループ拠点内の省エネ推進活動をスピーディーに実施するためのコア人材（リーダー）育成について、実践教育を主体とした育成カリキュラム策定に向けて各拠点のニーズについても話し合いました。

今後も「環境トップランナー」を目指し、世界環境会議の開催を継続する計画です。

■最優秀賞（拠点1位）：FTZ

塗装工程スプレー量削減



水使用量を低減するため、品質に影響を与えないことを繰り返し確認したうえで、前処理後純水洗及び電着後純水洗のスプレー量を調整。水量を調整するのみで、新たに投資することなく、7,500 m³の水使用量を削減でき、改善前に比べ、半減することができた。

この他、乾燥機の廃熱改善でも効果をあげるなどが評価された。(P31参照)

■アイデア賞：DYNA-MIG

カブの搾り汁を凍結防止剤として使用



塩化ナトリウムに代わってカブの絞り汁を凍結防止剤として使用を始めた。本来塩化ナトリウム系の凍結防止剤では、鉄製の階段にはあまり効果はなく、錆の原因にもなっていた。カブの絞り汁は十分凍結防止になるとともに、階段も錆びなくなった。環境会議参加者からは、絞り汁がシミにならないか心配する声や入手方法などの質問があったが、現時点では特にシミの発生もなく、入手も容易である。

■優秀賞（施策1位）：F&P

有害廃棄物となるプレス用軍手の削減活動



プレス油には、錆を抑制するためにバリウムが少量含まれている。カナダ政府の規定では、バリウムが付着した軍手は有害物の処理手順で処理する必要がある、手間も費用も多くかかっていた。そこで、軍手を使い切りではなく外部クリーニング会社に洗浄を委託し、再利用することで購入及び処理費用とともに、廃棄物量の削減を実現した。

■CSR賞：F&PA

障害者支援活動



2016年6月からマイアミ郡の発達障がいを持つ成人支援に焦点を当て、地方の非営利団体と提携して障がい者雇用を推進している。現在4名の従業員を受け入

れており、勤務は通常、午前9時から午後2時まで。溶接工程でフルタイム勤務をし、生産目標を達成する人や、手話を用いて梱包物の開梱作業をする人など、個々の能力に合わせて働いている。彼らの大きな努力、前向きな仕事ぶりが全従業員のやる気向上にもつながっている。

偉福科技工業（中山）有限公司（FTZ／中国 広東省） 中国グループ会社が本田汽車（中国）有限公司「環境賞」受賞



エフテックグループは、「エネルギー・マネジメントの進化による環境トップランナーの実現」をスローガンとする第12次中期計画（環境領域）（2014年～2016年）で、2015年から各地域のベンチマーク拠点からISO50001のグローバル展開を開始してきました。

2016年度は中国の偉福科技工業（中山）有限公司（中国広東省中山市）（以下 FTZ）へ活動を拡大し、自己宣言^{*}を完了しました。

FTZではエネルギーコスト削減に取り組み、導入したエネルギー・マネジメントシステムを活用して改善施策をリストアップ。

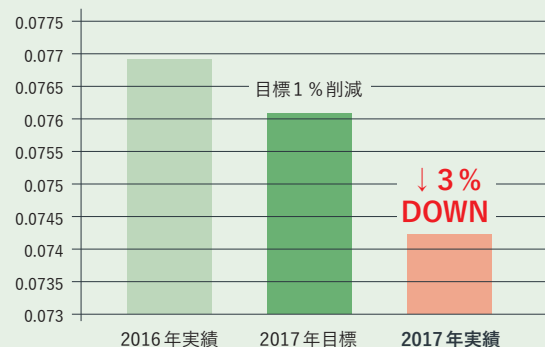
2017年度に取り組む施策の計画を立てて取り組んだ結果、目標としていた【2016年度比CO₂排出原単位1%削減】を達成しました。

^{*}自己宣言：第三者機関によって規格の適合性を確認する第三者認証とは異なり、自己評価を行って、規格への適合を自己宣言する手法。

塗装ラインの空ハンガー検知センサー導入による省エネ

改善施策の一例としては、「塗装ラインの空ハンガー検知センサー導入」があります。これまで塗装ラインでは、休憩時や設備の生産条件調整時、1勤と2勤の交代時にもラインが稼働していました。そこで、無駄なエネルギーを削減するために各時間帯の空ハンガー数と時間を調査し、改善策を検討しました。

空ハンガーが多い時間帯が頻繁にあることがわかったため、検知センサーを取り付け、通過する空ハンガー数に応じて各工程が自動で停止するように改善しました。その結果、1日当たり、約150kWhの省エネとなり、年間で37,625kWh、523千円の削減効果となりました。



本田汽車（中国）有限公司「環境賞」受賞

FTZは、2018年1月に本田汽車（中国）有限公司が、製品ライフサイクルでの環境負荷低減で優れた取り組みを行った取引先へ授与する「環境賞」を受賞しました。

これは、導入したエネルギー・マネジメントシステムの活用による環境負荷の低減、並びに目標値を達成したことが高く評価されたことによるものです。



“世界TOPレベルの高位品質水準”の達成を目指し “グループ全体で、最大の顧客満足”を達成します。

第13次中期経営計画のもとで、“世界TOPレベルの高位品質水準”の達成を目指し、お客様に最高の価値を提供するためグループ全体の目標を設定し、活動を推進しています。

2017年度は、①新品質7施策の継続展開、②新機種安定立上げの仕組み構築、③北米拠点の品質保証体制強化に取り組み、品質改善活動を推進してきました。引き続き、品質改善活動を強化していく事で、第13次中期経営計画最終年度(2019年度)にはグループ全体で、お客様に最高の価値を提供できるよう努めて参ります。

「再発防止」から「未然防止」へ 『Zero-Defects(不具合ゼロ)』に向け

2018年度は、引き続き第13次中期経営計画最終年度である2019年度において、『Zero-Defects(不具合ゼロ)』を達成するための土台作りを実施します。

個々の課題を明確にするとともに、再発防止から未然防止へ重点をシフトし、お客様への流出不具合、工程内不良(廃却仕損費)の削減を進めます。中でも工程内不良の削減活動については、今期特に強化する事項として、原因分析・対策・効果確認のPDCAサイクルのスピードをあげて対応する計画です。

また、未然防止のため、製品設計/製造工程設計段階でのリスク検証と対応も強化します。さらに、グループ内で課題地域と設定した北米地域では、四半期毎に北米拠点QMTGの開催等、北米6拠点の品質改善強化と取り組みの支援・サポートを充実させます。

第32回 世界品質合同会議 開催 グローバル目標の達成へベクトル合わせ

2018年6月5日～7日に埼玉県熊谷市にあるホテルヘリテージにて、国内/海外製造拠点(13拠点)及び日本の機能本部(品質保証室、開発本部、エンジニアリング本部、購買本部)の関係者が集まり、年1回定例の「第32回 世界品質合同会議」を開催しました。

今期のグループ注力課題である「工程内不良削減」をテーマに、各拠点の課題、目標、改善取り組みを共有し、グローバル目標の達成に向けてベクトルを合わせました。会議の最終日には、群馬県太田市にある株式会社SUBARUの矢島工場を見学し、同業他社で製造している足回り製品が、どのように組みつけられるのかを知る良い経験となりました。また、日本の自動車製造の品質管理、生産技術力を海外拠点のメンバーを含め勉強することができました。



基本に立ち返り 5Sを徹底し、 災害の無い安全な職場を作ります。

基礎を固めて、 災害の発生しない職場の構築へ

エフテック*及びFEGでは、2017年度の全社安全方針を「基本に立ち返り 5Sを徹底し、災害の無い安全な職場を作る」と設定して、引き続き「休業災害0件」を目標に毎年各拠点で労働安全衛生活動を実施しています。

エフテック及びFEGの委員で組織されている全社安全委員会では、重点項目として「①過去発生した災害情報共有による再発防止」、「②リスクアセスメント（設備・特定化学物質）による労働災害の未然防止」の二本柱を設定し、活動しました。また、業務災害だけでなく、交通災害についても災害件数が減少するように各地域で活動を進めています。

2018年度については、基本方針は昨年度に引き続き「基本に立ち返り 5Sを徹底し、災害の無い安全な職場を作る」と設定し、新たな取り組みとして、「①九州エフテック及びリテラも参加し、国内のエフテックグループ一丸となった安全衛生活動の推進」「②フォークリフト・保護メガネのルール統一化」をそれぞれ展開予定です。

*本社・久喜事業所、亀山事業所、芳賀テクニカルセンター及び加須設備センター

化学物質リスクアセスメントの各種取り組み

全事業所で、既存の作業に対する化学物質リスクアセスメントに取り組んでいます。各地区でリスクアセスメントを実施し、改善の必要な箇所については、適宜改善を行いました。2018年度はさらに活動を強化し、業務災害の未然防止に努めます。

芳賀テクニカルセンター取り組み事例

薬剤名 水酸化ナトリウム(固)		
保管場所 主な使用用途	環境様 溶接マシ	●GHSシンボルマーク
●薬剤基本情報(組成及び成分情報)	組成及び成分情報	
外観写真	単一製品・混合物の区別	単一製品
	化学名又は一般名	水酸化ナトリウム/カセイソーダ
	成分及び含有量	水酸化ナトリウム 95%以上
	化学特性(示性式)	NaOH
●GHS分類	物理的危険性	区分外
	健康に対する危険性	区分外
	環境に対する危険性	区分外
健康に対する有害性	皮膚腐食性	区分外
	皮膚腐食性・刺激性	区分外
	指定標的臓器/全身毒性(単回暴露)	区分外
	目に対する重篤な障害、刺激性	区分外
環境に対する有害性	水生毒性(急性)	区分外
	水生毒性(慢性)	区分外

飲み込むと危険な薬品について、ワンポイントを作成

グループ内外の災害情報共有で 類似災害の防止

2017年度の重点項目である過去発生した災害情報共有による再発防止の対応に加えて、関連会社の災害情報を水平展開し、類似災害未然防止活動を行っています。展開された内容はリスト化され、改善が必要なものについては各地区で対策を講じ、対策内容と結果については安全衛生委員会で確認をとる体制としています。

ドライブレコーダー活用による 業務災害・交通災害の防止

各地区での取り組みとして、ドライブレコーダー設置による災害の未然防止をご紹介します。加須設備センター(埼玉県加須市)では2015年から、すべての社用車にドライブレコーダーを取り付けています。運転記録は、安全衛生委員会内で抜き取り調査を実施し、運転内容に問題が無いかをチェックします。チェックした内容で危険な運転等があった場合は、交通安全講習会等で実例をもとに注意を喚起しています。この活動を行うことで、交通事故(加害事故)は2014年度の5件発生から徐々に減少し、2017年度は0件となりました。

加須設備センター取り組み事例



社用車のドライブレコーダー内容をもとにした交通安全講習会の開催。

エフテックグループは社会貢献の一環として、奨学財団を通じた人材育成支援、森林づくり、地域での清掃活動等に取り組んでいます。

Column 生物多様性への取り組み

国内では、従業員参加率目標を25%以上へ強化
海外拠点でも多くの取り組みを継続的に実施

2015年に生物多様性ガイドラインを発行してから3年が経過し、グループ全体で活動が定着してきました。国内では2015年度から「従業員数の20%以上参加」を目標として活動を進めてきましたが、多くの従業員の協力で、毎年目標を大幅に達成しています。そこで、2017年度からは目標値を25%以上とし、マザー拠点として他拠点をリードするべく、いっそう活発に取り組む計画です。

2017年度 目標

エフテック

拠点従業員数参加率：25%以上（207人以上）

エフテックグループ

生物多様性への取り組み継続

2017年度 実績

エフテック

参加率：44% 延べ参加人数：368人

活動拠点：3拠点 活動数：11

エフテックグループ

延べ参加人数：926人

活動拠点：12拠点 活動数：27

森林整備活動の継続

F.tech グループ

生物多様性ガイドラインを発行後、グループの多くの拠点で森林整備に取り組んできました。2017年度は、DYNA-MIGで25本、F&Pで300本、FTZで60本、FPMIではフィリピン政府と協力し1,650本、1年間で合計2,000本以上の苗木を植えました。

また同じく2015年から開始した「エフテックの森林づくり」（埼玉県毛呂山町）も継続して活動しており、2017年度は、計81名（従業員の家族含む）で間伐作業を実施しました。エフテックでは、森林整備活動もまた、企業としての責任のひとつであると考えています。今後も継続してグループ全体で取り組んできます。



エコガーデン活動

F.tech Philippines Mfg.,Inc.（フィリピン ラグナ州）

FPMIでは会社敷地内の一部に庭園を作り、CO₂削減に努めています。庭園作りでは、工場内で発生した廃棄物（空ドラム缶、廃タイヤ、木材など）の再利用にも努めています。

また、敷地内に庭園を作ることは、多種多様の生物たちの住処の確保にも繋がるため、今後も継続して整備していきます。



■地域の環境保全活動

- ・備前堀川クリーンアップ
- ・エフテック森林づくり
- ・アダプトプログラム
- ・敷地外清掃活動
- ・工業団地清掃活動 etc.



■教育文化への貢献



名 称：公益財団法人エフテック奨学財団

設 立 日：2016年6月23日

事業目的：世界で活躍できる人材の育成支援

Webサイト：<https://www.zaidan.ftech.co.jp/>



- ・小学校の工場見学
- ・高校生の現場実習
- ・大学生の研究活動への協力
- ・工業系の学校教員の研修の支援

©各種技術視察団に対する協力、国際協力

Japan



久喜事業所（埼玉県久喜市）

乾燥炉内ガス排気量の見極めによる燃料削減

乾燥炉内で製品を焼き付ける際に発生する悪臭ガスを除去するため、炉内空気の一定量を常時脱臭装置に排気しています。しかし、排気と同時に燃焼で発生した暖気も除去されて炉内温度が下がり、炉内温度の低下にともなって、乾燥炉の設定温度をキープするために燃料消費量が増加します。

そこで、改善策としてガス排気ダクトの回転数を下げることで暖気排気量の低減を試みました。回転数を1Hzずつ下げ、乾燥炉室のガス漏れ検知器の数値を監視しつつ回転数の適正化を図った結果、35Hz→30Hzに下げることによって1 m³/hの燃料削減となりました。年間効果として、燃料3,960 m³ (CO₂換算：8,236 kg-CO₂) の削減に繋がりました。次年度は燃料供給配管への磁石取付による燃焼効率UPで、さらなる燃料削減改善を計画しています。



亀山事業所（三重県亀山市）

環境パトロールによる要改善検討箇所の抽出

2009年からエネルギー管理システムを活用した省エネ改善活動を継続してきた結果、改善点も少なくなりつつあります。そこで、新たな改善点抽出のために、3現主義に立ち返り、サイト環境会議の時間に環境メンバーによる環境パトロールを実施し、要改善検討箇所を抽出しています。

直近ではプレス工場で、4件の要改善検討箇所を抽出、改善を行いました。たとえば、照度センサーとタイマーによる天井照明自動点灯について、冬季の日没とタイマー設定時間があわず、工場内が照度不足になっていました。そこで、タイマーを廃止し、センサーだけの機能にした結果、照度不足による強制点灯も無くなり、電力量削減につながりました。今後も環境パトロールを実施し、要改善箇所の抽出、改善を継続していきます。

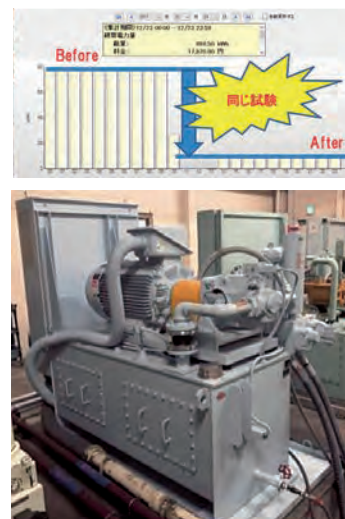


芳賀テクニカルセンター（栃木県芳賀郡芳賀町）

6軸油圧疲労試験機インバーター化による電力削減

開発部品の耐久性評価に用いる6軸疲労試験機では、最大6種類の試験を個々に評価できますが、すべてを稼働するには圧力を定格(75kW)で動かす必要があります。試験が終了する度に圧力を低下させれば電力を削減できますが、夜中の無人時には調整できず高圧力で動き続けるため電力が無駄になります。また、本設備は、導入後15年フル稼働のため、老朽化も進んでいました。

そこで、2017年に高効率化モーター+インバータ化に更新しました。導入後、試験状況によって自動で圧力調整され、前期に比べ197,500kWhの電力(74t-CO₂)が削減される見込みです。さらに、付加価値として圧力低下による作動油の油温上昇が抑えられオイルの劣化や摺動部の摩耗抑制による約100万円のランニングコスト低減にもつながりました。他設備でも投資の費用対効果を検証し、電力削減の取組みを継続します。



Japan



フクダエンジニアリング株式会社 (FEG / 埼玉県加須市)

コンタクトレンズ空きケースリサイクル

FEGでは、「コンタクトのアイシティ ecoプロジェクト」に参加しています。これは、ポリプロピレン製の使い捨てコンタクトレンズの空ケースを社内で回収し、コンタクトレンズの販売を行っているアイシティに郵送し、リサイクルするものです。コンタクトレンズの空ケースは白1色のため、様々な色に加工ができ、全メーカーが素材を統一しているため、分別の必要がなくリサイクルに大変適しています。しかし現状空ケースのリサイクル率は非常に低いことを知り、FEGもこの活動に参加しました。リサイクル量が増えることで、焼却時に発生するCO₂排出量の削減にも繋がります。また、リサイクル業者への売却代金は、日本アイバンク協会に寄付され、そのお金は角膜移植やアイバンクの啓発・普及のために役立てられています。FEGでは今後もこの活動を継続する計画です。



株式会社九州エフテック (QFT / 熊本県山鹿市)

樹木の維持管理に努めています

QFTでは、操業開始以来、外部業者による樹木の伐採を実施していませんでした。そのため、生い茂った木々が道路側まではみ出し、その樹木を避けるために、車が中央側に寄って走行している状況でした。従業員だけでなく周辺企業や出入りする業者の安全確保も困難になることから、従業員によって大幅な樹木伐採を実施しました。

その結果、見通しが良くなり、安全走行はもちろんのこと、工場内外に大量に落ちていた枯枝、枯葉も解消できました。QFTでは、今後も排気ガスの浄化作用・大気汚染・ヒートアイランド現象等の環境問題を和らげる効果のある樹木の維持管理に努めます。



▲Before



▲After

株式会社リテラ (埼玉県秩父郡小鹿野町)

「全社省エネPJ」による省エネ活動推進

省エネ活動「全社省エネPJ」を2014年10月に発足し、現在まで計52回の会議(1~2回/月、社長・会長・役員・工場長・設備担当・企画推進者出席)を開催しています。各サイト(本社棟・両神工場・秩父工場・秩父第二工場)からの省エネ案件について、進捗状況の確認、費用(投資)対効果、エネルギー(電気・LPG・ガソリンなど)削減量の推移・推測など年間スケジュールを設定して遵守・確認しています。

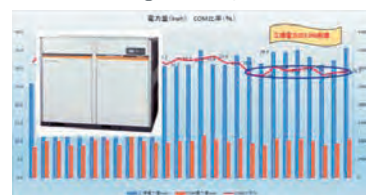
2017年度は「①LPGを燃料としているアルミ溶解炉の高効率炉への更新」「②天井照明のLED化」「③吐出量低下(非効率)コンプレッサーのプレミアム高効率モーター採用機器への更新」などを推進して大きな削減効果(400万円/Year)(130t-CO₂/Year)となりました。2018年度は「①ガソリン燃料フォークリフトの更新(充電タイプ)」「②天井照明のLED化」「③低炭素アルミ溶解炉への更新」「④非効率コンプレッサーの更新」などを計画し、現在取り組んでいます。



①アルミ溶解炉

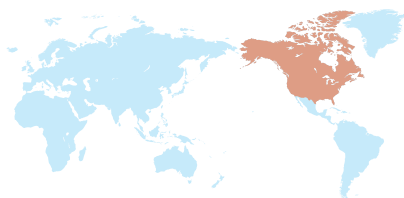


②LED 11W



③75kw コンプレッサー

North America



F&P Mfg., Inc. (F&P / カナダ オンタリオ州)

新しいIPGレーザー切断機械への置き換え

ハイドロフォーミング部門は、Trumpfレーザー切断システムを、IPG Photonics製のエネルギー効率が高いモデルに置き換えました。このレーザーシステムは、効率的な光生成技術によって、同社製品比で従来の82%電力使用を低減(217,300kWh)するほか、消耗部品の削減も実現されています。これによって、年間30,222ドルの電力節約に加えて、F&Pは、この技術への投資に対してSaveOnEnergyリポート23,530ドルを受領しました。



照明のLED化とVFDコントローラへの変更

パッキングエリアの明るさのレベルは、品質保証にも大きな影響を与えます。F&Pのプラント2では小型部品とフォークリフトエリアの蛍光灯をLEDに取り替えました。変更し33,944ドルかかりましたが、結果として1,960ドルのリポート、55,316kWhの電力削減、7,191ドルの電気料金削減、投資回収期間は4.45年となりました。

また、700tプレスストレートモーターコントローラを、アイドル状態のときに電力を必要としない新しいVFD(可変周波数装置)に変更したことで、年間100,800kWhの節約、と単純回収期間は1.8年間となりました。



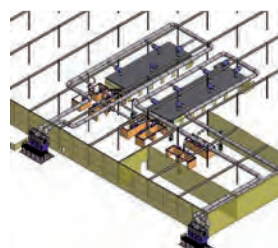
Dyna-Mig, A division of F&P Mfg., Inc. (DYNA-MIG / カナダ オンタリオ州)

溶接排気ガスフィルターシステム導入で省エネ効果

高度なVFD(可変周波数装置)を備えた溶接排気ガスフィルターシステムを新たに導入しました。各セルの起動時には、排気に必要な条件が整うまで、VFDはモーター駆動を上げますが、休憩時など、1つか2つのセル使用時には、VFDが、少ないエアで大丈夫であると認識し、必要な量に合わせて自動でモーターの駆動を管理します。

また、VFDは、フィルター圧センサーを活用することで、フィルターに蓄積した塵の量を認知します。フィルターが新しく、塵がたまっていない時は、必要な量の駆動で消費電力を抑え、フィルター圧が増加すると、モーター速度を上げることで、吸引力の低下を補います。

新システムでは、VFDによって節約した電力量が表示されます。VFDの効果によって、2017年の4ヶ月間で、2,163,822 kWが節電できました。新しいすべての溶接排気ガスフィルターシステムに対して導入しています。



F&P America Mfg., Inc. (F&PA / アメリカ オハイオ州)

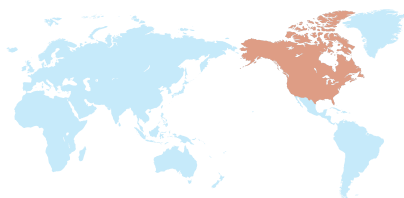
高速シートシャッターの設置

現状、金属加工部門の建屋には金属製の扉があり、手動操作にて開閉に28秒、その後平均して2分近く開いたままとなっていました。せっかく空調設備で冷やしたり、暖めた空気が外に出てしまいエネルギー消費のムダとなっていました。それを高速シートシャッターに変更し、開閉時間及び自動機能により省エネルギーを実現しました。

高速シートシャッターに変更したことで、開けるのに5.8秒、閉めるのに10.3秒、人の出入りなどがなければ扉が開いてから5秒後には自動で閉まるようになり、2017年12月に設置以降、空調で使用している天然ガスと電力が削減され、79.8t-CO₂の削減に繋がりました。また、元々設置されていた金属製の扉は、長期連休時の防犯用として残しています。



North America



F&P Georgia, A division of F&P America Mfg., Inc. (F&PG / アメリカ ジョージア州)

照明器具変更による使用電力低減

F&PGでは、CO₂排出量を削減するために工場内の高天井エリアの照明を変更し始めました。今回は、55灯の430wメタルハライド照明を200wのLED照明に変更しました。LEDに変更したことにより、1灯あたり230wの削減となり、これらを1週間の平均労働時間80時間(2交代勤務)、ならびに年間で平均50週間生産があると仮定し、計算すると年間で50,600kWhの電力、47,564kg-CO₂もの削減に相当します。



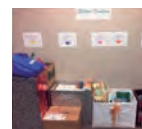
改善前と改善後

F.tech R&D North America Inc. (R&DNA / アメリカ オハイオ州)

紙書類のデータ化と地域社会への貢献

継続的な紙書類廃棄活動の一環として、会社設立まで遡る過去の総務関連の書類をデータ化し、書類削減・保管スペースの再使用及び紙のリサイクルの3Rを推進しました。同時に機密保持や文書管理の効率の観点においても改善できました。

また、地域の一員としての従業員の意識を高め、地域社会に貢献するCSR活動として、市内にある家庭内暴力の被害者やホームレスのための一時的な保護施設に寄付を行いました。従業員に呼びかけ、施設が必要とする古着や紙おむつやシャンプーなどを含む日用品を集めました。子供達のための絵本なども含め、オデッセイいっぱい品物を届けることができました。



FEG DE QUERETARO, S.A. DE C.V. (FEGQ / メキシコ ケレタロ州)

リサイクル活動を通じた「社会貢献プログラム」を開始

癌患者の支援及び環境改善(公害防止)の一環として、リサイクル活動への積極的参加を推進しています。具体的な取り組み内容としては、会社及び従業員の家庭で消費した飲料水の「ペットボトルの蓋」を200kg以上回収しAMANC協会へ提供。その結果、3名の子供たちの治療の一部として役立たせることができました。また、環境面の効果としては300kg相当のCO₂排出削減につながりました。

また、2016年度まで電子部品の廃却については処理業者に委託後、どのように処理されていたのか不明であったため2017年度より適正処理を証明するエビデンスの提出を業者に義務付けました。



2017年度 電子部品適正処理における効果

- ・9,252ℓの水節約
- ・1,673kgの化石燃料の不使用による温室効果ガス削減
- ・1,386kgのCO₂排出削減

F&P MFG., DE MEXICO S.A. DE C.V. (FPMX / メキシコ グアナファト州)

廃棄物分別の啓発と敷地内緑化活動

FPMXは、2017年5月にISO14001を認証登録しました。毎月の全体朝礼や、休憩や昼食時に食堂にあるモニターを利用して、全従業員が廃棄物分別の重要性を認識するように情報展開しています。

また、敷地内の芝生の一部を別の植物に替えて、水道の使用量を減らしています。時間はかかりますが将来少ない水量で緑になることを期待しています。今年度も木々の植樹を増やし、工場内をより良い環境となるように展開しています。従業員が自分で植樹した木々の成長を楽しみつつ、少しずつ環境保全の取り組み意識を高めていきたいと考えます。



芝生代わりにデッド・モロを植えています



食堂のモニターで環境テーマをPR



敷地内植木活動(30本)

Asia & China

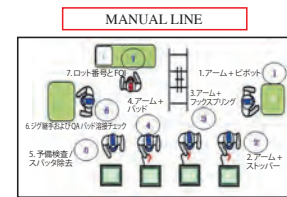


Ftech Philippines Mfg.,Inc. (FPMI / フィリピン ラグナ州)

手動溶接からロボット溶接への変換

これまでのペダルコンブ溶接ラインでは、7人の従業員で7つの手動移送プロセスを用いて、月に37,920個(年間455,040個)を生産し、消費電力は年間375,091.2kWh、238.6t-CO₂相当でした。

手動溶接からロボット溶接への変換によって、溶接ジグを修正するなど、7つのプロセスが5つにまとまりました。レイアウトもスムーズな動線に変更し、スペースを最小限に抑え、プロセスでの無駄を排除しました。改善後、新溶接ラインの人員は7人から4人で操業可能となっただけでなく、月産能力も27.2%増の48,240台(年間578,880個)に増加しました。年間消費電力では205,286kWh(130.6t-CO₂相当)となり、従来の手動溶接ラインと比較すると、CO₂排出量も45.3%削減できました。



MANUAL LINE



ROBOTIC LINE

7人7プロセスから4人5プロセスに減らし、かつ生産能力もアップしました。

Ftech R&D Philippines Inc. (FR&DP / フィリピン ラグナ州)

植林活動に参加

2017年8月、FPMIと共同で国立緑化プログラムの支援として植林活動に参加し、Kalayaan Lagunaに計1,500本の苗を植えました。クリスマスの感謝の文化の一環として、当社従業員はワールドビジョンを通じて子供のスポンサーシップを毎年約束しています。私たちは、このスポンサーシップが将来的には支援した子ども達の新しい扉を開くための良い機会になると信じております。また、戦争で荒廃したマラウイ市の状況を緩和するために、従業員は犠牲者に古着を寄付しました。

その他の活動としては、省エネルギーでは室内の最低温度を24℃に設定。また、安全衛生委員会では、火災と地震の訓練、教育訓練と活動を通して、安全意識の啓発を継続に実施しています。



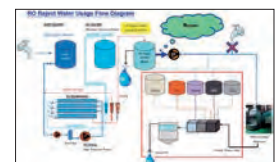
Ftech Mfg., (Thailand) Ltd. (FMTL / タイ アユタヤ県)

省エネルギーと水資源有効活用の取り組み

206本の蛍光灯をLED照明に変更した結果、消費電力が19,037.81 kWh低減、電気料金69,868.76 THB/Year削減、CO₂排出量12.24t-CO₂削減しました。

空調システムでは、33台をインバーター化し、消費電力は215,949.89 kWh低減、電気料金803,333.59 THB/Year削減、CO₂排出量138.86 t-CO₂削減となりました。資源の有効活用では、排水処理システムによって、水道水をRO Rejectの水に変更することで、水道使用量は3,662.4 m³/Year、水道代62,260.8 THB/Year削減できました。

またその他、「段ボールはリサイクル紙などのエコな素材採用」「子供の日のプレゼントは子供に寄付をする」「5S活動及び従業員のゴミ量減らす」「ゴミ分別に対する意識の向上させる活動」に取り組んでいます。



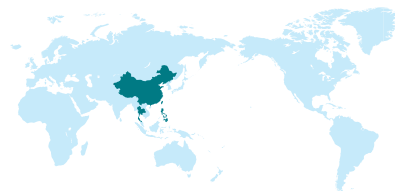
PT.FTECH INDONESIA (FTI / インドネシア カラワン県)

CSR活動プログラムへの参加

2017年7月度 FTIが所在するKIIC工業団地(Karawang International Industrial City)では2008年の運営開始以降、共同CSRプログラム/ベビーフードをKIIC近隣の村に子供達の健康診断日に合わせて補給、配布活動を実施しています。インドネシアで事業を進めるには近隣の村の協力が重要なことから、KIIC内各企業とともに参加し各近隣の村を訪問しています。今回からFTIも参加し、従業員に地域への社会貢献に関する意識を高めていきたいと考えています。



Asia & China



偉福（広州）汽車技術開発有限公司（FR & DCH / 中国 広東省）

ゴミ分別・リサイクルの展開

2017 年からゴミ分別とリサイクルについて、環境整備、ゴミ分別マニュアル作成、及び従業員に対するゴミ分別の教育指導という対応で活動を展開しています。

粗大ゴミ（物品や部品の梱包資材としての木箱や段ボール、廃棄金属、樹脂箱やプラスチック箱、KDケースなど）については、ゴミ集積場を設置し、リサイクル業者による定期的収集で対応しています。事務所ゴミは、リサイクルと回収不可、有害品という 3 種類のゴミ箱を設置し、ゴミ分別マニュアルでゴミの種類を詳しく規定しています。従業員向けのゴミ分別教育は掲示板へのゴミ分別の教育指導、ゴミ箱にゴミイラストを貼ることで対応します。



偉福科技工業（武漢）有限公司（FTW / 中国 湖北省）

現場圧縮エア－漏れ改善

製造現場で使用する圧縮エア－を作るために、多くの電力が必要です。エア－漏れは圧縮機の負荷率を上げ、さらなる電力消費につながります。設備担当者は圧縮エア－の配管を点検する時『エア－漏れ点検位置レイアウト』を通して、エア－漏れの検査を実施しています。エア－漏れ箇所が発見された場合、レイアウトに記入して、修理計画に反映して改善・実施しています。

修理を実施する設備担当者はレイアウトの記入に従って、漏れ配管を修理した後『エア－漏れ調査表』でエア－漏れの設備、漏れ位置、原因、漏れ量、修理箇所、修理担当者などを記録し、発見されたエア－漏れ箇所は直ちに修理対応できるようにして、エア－漏れ量の減少を図っています。

圧縮エア－漏れの年間改善効果は、電気削減 52,882kWh、電気代削減 47.6 千元、CO₂排出量削減 40.5t-CO₂となりました。



偉福科技工業（中山）有限公司（FTZ / 中国 広東省）

乾燥機の排熱口を変更

これまで、乾燥機の排熱が直接コンプレッサー室に排出されていて、室温が高くなりエアコン及び設備の電気使用量が増加していました。そこで、乾燥機の排熱口をコンプレッサーの排気管と結合させることで排熱を屋外に排出しました。その結果、室温が低下しただけでなく、エアコンも 3 台中 1 台を停止、乾燥機の負荷低減にもつながりました。

【改善前】



空調機

【改善後】



ファンのダクト



On the Global Way 世界を結び、世界で創る

世界9か国、11生産拠点、7開発拠点が、品質・開発・生産・環境などあらゆる面で
情報交流を進め、グループ全体でのレベルアップを図っています。



本社国内拠点

- ★本社・久喜事業所
- 亀山事業所
- 芳賀テクニカルセンター
- 設備センター

国内グループ会社

- フクダエンジニアリング株式会社
- 株式会社九州エフテック
- 株式会社リテラ
- 株式会社城南製作所

海外グループ会社

- F&P Mfg., Inc.
- Dyna-Mig, A division of F&P Mfg., Inc.
- F&P America Mfg., Inc.
- F&P Georgia, A division of F&P America Mfg., Inc.
- F.tech R&D North America Inc.
- Michigan Branch Office
- F.tech R&D North America Inc. European Branch
- F.E.G. DE QUERETARO S.A. DE C.V.
- F&P MFG., DE MEXICO S.A. DE C.V.
- F.tech Philippines Mfg., Inc.
- F.tech R&D Philippines Inc.
- F.tech Mfg., (Thailand) Ltd.
- PT.F.TECH INDONESIA

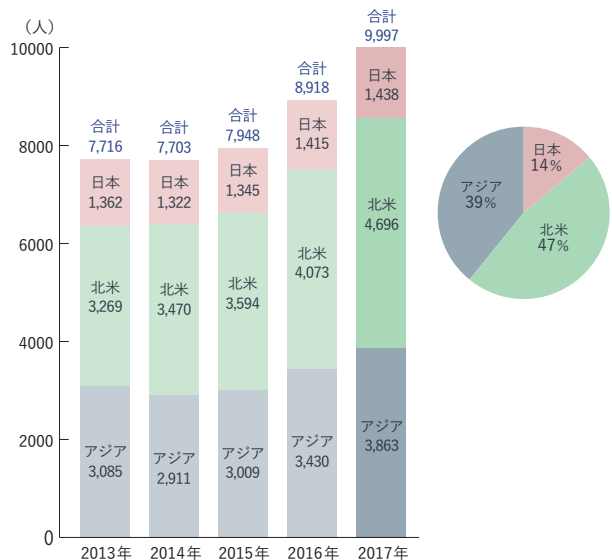
- 偉福科技工業 (中山) 有限公司
- 偉福科技工業 (武漢) 有限公司
- 煙台福研模具有限会社
- 偉福 (広州) 汽車技術開発有限公司
- F.tech Inc. Office UK
- Johann America, Inc.
- Johann De Mexico, S.A.de C.V.
- Johann UK Ltd.
- Johann F.tech (Thailand) LTD.
- PT.JFD INDONESIA
- 城南武漢科技有限公司
- Progressive Tools & Components (P) LTD.

会社概要

会社名	株式会社エフテック
本社所在地	埼玉県久喜市菖蒲町昭和沼19番地
創立	1947年7月1日
資本金	67億9,037万円
代表者	代表取締役社長 福田祐一
従業員 (連結)	9,997人 (平均臨時雇用者数含む)
事業内容	自動車部品及びそれに伴う金型、 機械器具等の開発・製造・販売
主要取引先	本田技研工業株式会社 General Motors Company 日産自動車株式会社 株式会社本田技術研究所 日産車体株式会社 三菱自動車工業株式会社 スズキ株式会社 Toyota Motor Manufacturing 他

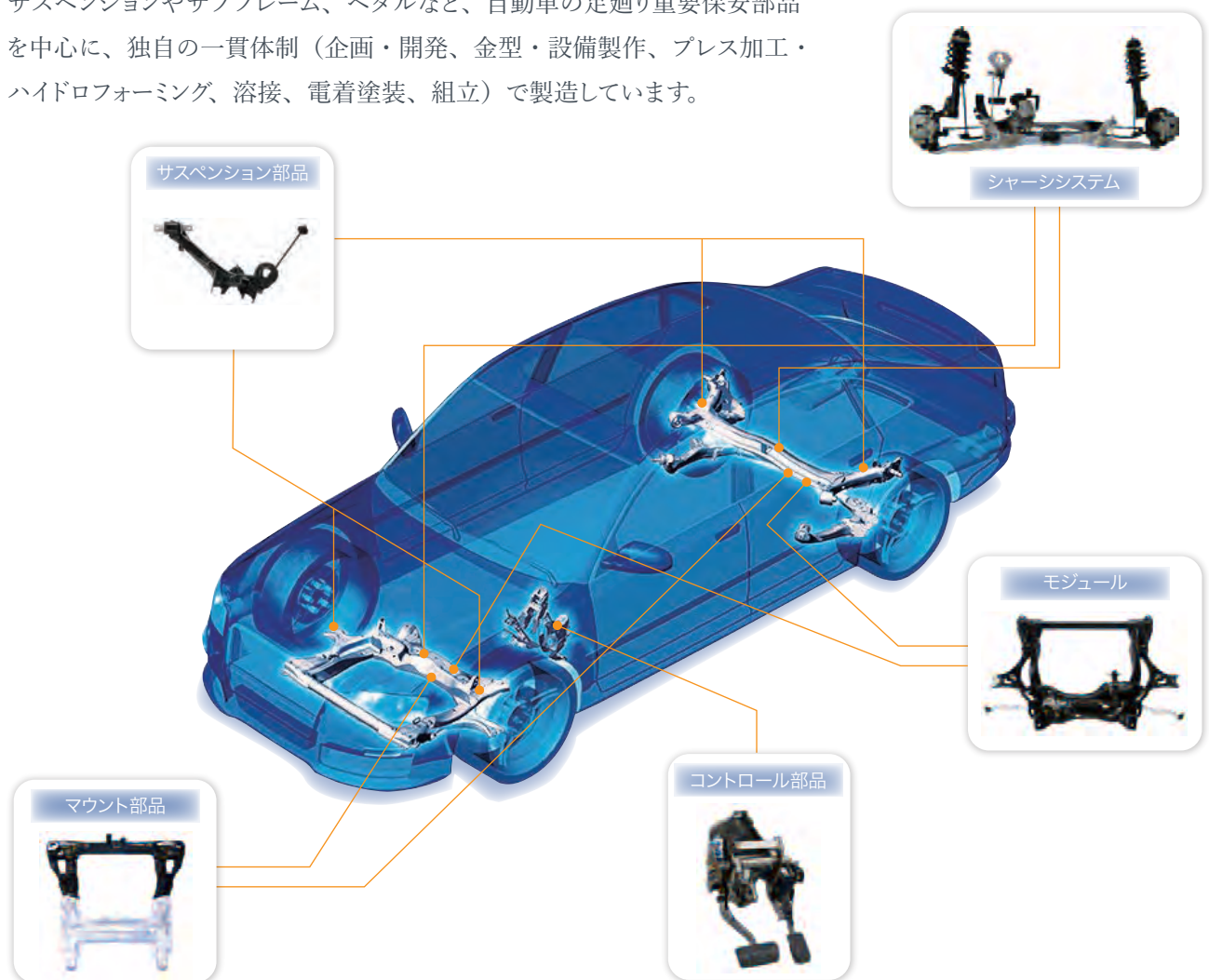
地域セグメント別従業員数

(平均臨時雇用者数含む)

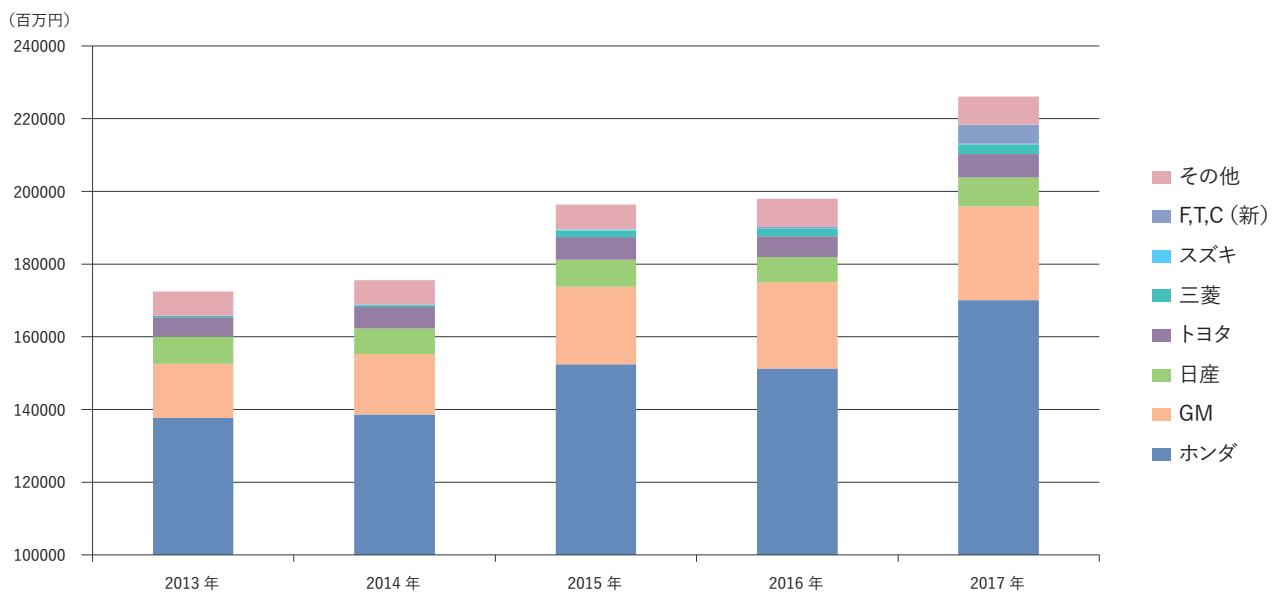


Our Products

サスペンションやサブフレーム、ペダルなど、自動車の足廻り重要保安部品を中心に、独自の一貫体制（企画・開発、金型・設備製作、プレス加工・ハイドロフォーミング、溶接、電着塗装、組立）で製造しています。

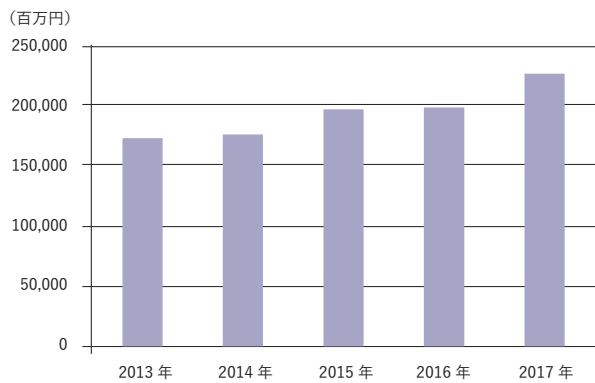


得意先別売上高シェア

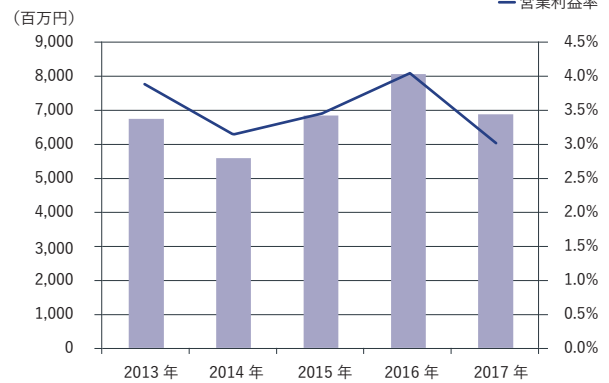


エフテックグループについて

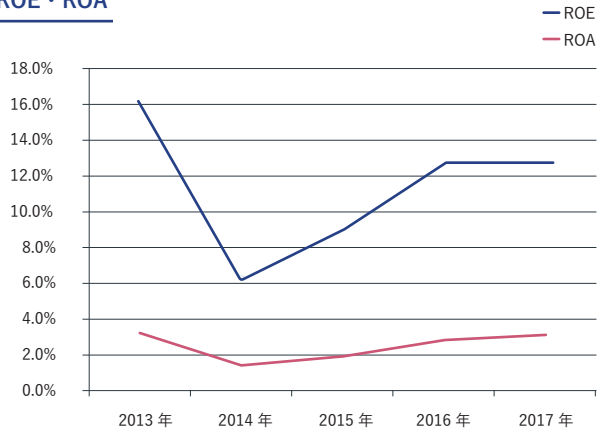
売上高



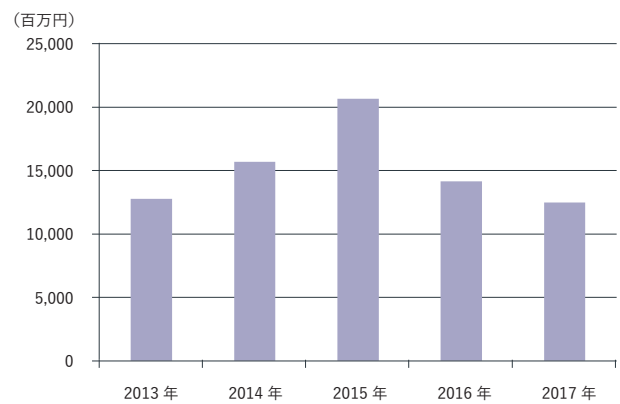
営業利益・利益率



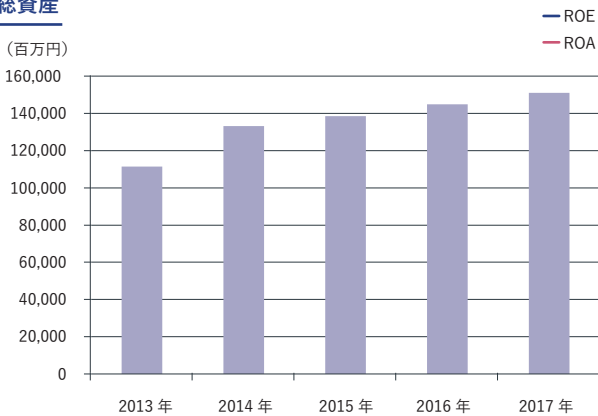
ROE・ROA



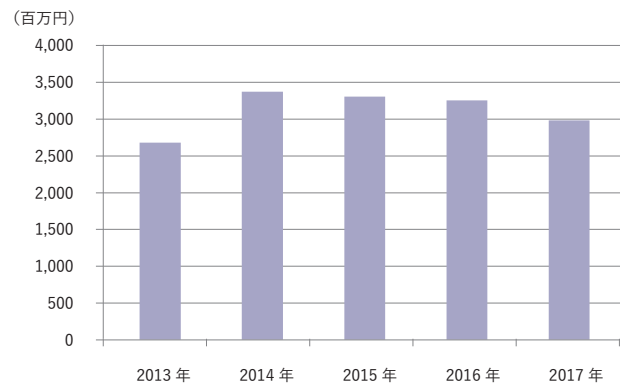
設備投資



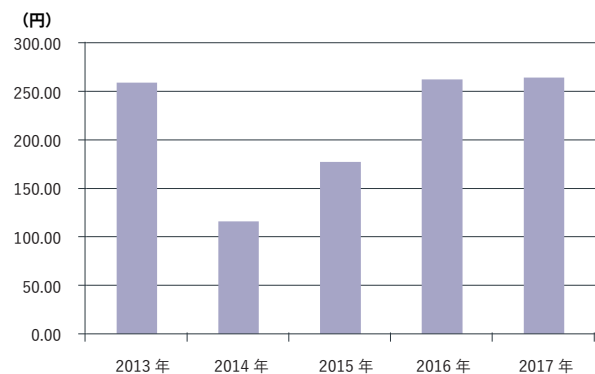
総資産



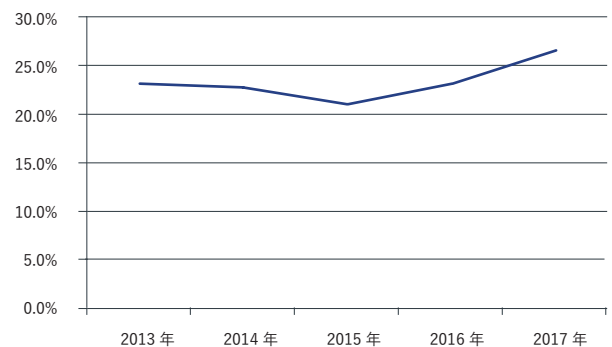
研究開発費



一株当たり当期純利益



自己資本比率





発行：株式会社エフテック
〒346-0194 埼玉県久喜市菖蒲町昭和沼 19 番地

問合せ：株式会社エフテック
管理本部 総務ブロック
TEL. 0480-85-5211 FAX. 0480-87-1290
E-mail : webmaster@ftech.co.jp



2019年2月発行 次回発行 2019年10月予定



この製品は、FSC® 認証材及び管理原材料から作られています。